

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	保健体育	担 当 教 官 名	打味 裕子/埴岡 孝之
対象学生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	45回
授業のキーワード	初段相応の実力を身に着ける為、認定実技審査に向けた形・受身・乱取・身嗜等の基本的動作の習得		
授業の概要 及び到達目標	①柔道着の着方、身嗜みを身に着けられる。 ②柔道の礼法を身に着けられる。 ③受身の重要性をしっかりと理解できる。 ④体の動かし方を理解してできる。 ⑤形の理合いを理解し、投げられるようになる。 ⑥形の名前基本的な動きを理解し動けるようになる。 ⑦立技の攻防をし正しい投げ方、受身の取り方を理解してできるようになる。		
講義計画・内容	1. 柔道の歴史、授業アンケート 2. 試験の説明、平常点の説明、自己紹介 3. 柔道着の着方 4. 礼法・柔道場の使い方 5. 礼法・受身(側方、後方、前) 6. 礼法・受身(前回受身) 7. 組手・礼法・受身 8. 試験説明 9. 試験前練習 10. 試験解説 11. 手技:浮落 12. 手技:浮落 13. 手技:背負投 14. 手技:背負投 15. 手技:肩車 16. 手技:肩車 17. 立技・寝技・受身 18. 試験前練習 19. 復習・演習 20. 試験解説	21. 腰技:浮腰 22. 腰技:浮腰 23. 腰技:払腰 24. 腰技:払腰 25. 腰技:釣込腰 26. 腰技:釣込腰 27. 試験説明 28. 試験前練習 29. 試験解説 30. 寝技(押込み・締技・関節技) 31. 足技:送足払 32. 足技:支釣込足 33. 足技:支釣込足 34. 足技:内股 35. 足技:内股 36. 試験説明 38. 試験前練習 39. 復習・演習 40. 試験解説 41. 特別講義 42. 特別講義 43. 特別講義 44. 特別講義 45. 特別講義	
準備学習	柔道場での復習		
教科書・教材等	柔道(教科書)・柔道着		
授業の形式 教育機器の活用	実技		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	1年生の柔道の授業では身嗜み、礼法などの基本動作をしっかりと身につけ、他の授業実技・座学にも活かしてほしい。また形や立技などでは、技の理合い、受身の重要性をしっかりと理解し、授業に臨んでほしい。 3年生の認定実技審査合格に向けて必要な技術・知識を体得してもらおう。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	解剖学 I	担当教官名	北田 貴子
対象学生	第1学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	40回
授業のキーワード	解剖学の基礎		
授業の概要 及び到達目標	<p>前期:①解剖学を学ぶ上で必要となる基本的な用語、基本的な知識生物学的知識を身につける。 ②体幹・頭部の骨格について学ぶ。</p> <p>後期:①顔面頭蓋、顎関節、頭頸部の筋について学ぶ。 ②神経の中樞神経、末梢神経について学ぶ。</p>		
講義計画・内容	<p>1. 今後の授業の進め方について・解剖学 で用いる方向線の名称、人体断面の名称</p> <p>2. 人体の区分 人体の区分線</p> <p>3. 細胞:細胞の形状・大きさ・構造</p> <p>4. 細胞:細胞内部構造、細胞小器官</p> <p>5. 細胞:細胞核の構造と働き</p> <p>6. 細胞:細胞分裂(有糸分裂・減数分裂)</p> <p>7. 細胞:人体の発生</p> <p>8. 組織:組織の分類・上皮組織</p> <p>9. 組織:支持組織</p> <p>10. まとめ・振り返り</p> <p>11. 試験解説・組織:筋組織・神経組織</p> <p>12. 運動系:骨格系 ①総論:骨の発生②骨の連結</p> <p>13. 運動系:骨格系 ②各論:脊柱 椎骨</p> <p>14. 運動系:骨格系 ②各論:脊柱 椎骨</p> <p>15. 運動系:骨格系 ②各論:胸郭 胸骨 肋骨</p> <p>16. 運動系:骨格系 ②各論:頭蓋 後頭骨 蝶形骨</p> <p>17. 運動系:骨格系 ②各論:頭蓋 側頭部 頭頂骨 篩骨</p> <p>18. 運動系:骨格系 ②各論:頭蓋 顔面頭蓋</p> <p>19. 復習演習</p> <p>20. 前期試験・解説</p>	<p>21. 運動系・筋系②頭部の筋:顔面筋 咀嚼筋</p> <p>22. 運動系・筋系②頭部の筋:広頸筋・胸鎖乳突筋・前頸筋 後頸筋・頸部における三角形</p> <p>23. 神経系 A神経系の基礎①区分と特徴 ②神経組織③神経系用語</p> <p>24. 神経系 A神経系の基礎 ④中神経系の 区分 ⑤脳室系 ⑥髄膜と脳脊髄液</p> <p>25. 神経系 B脳 ①各部の形態と機能 a終脳b間脳</p> <p>26. 神経系 B脳 ①各部の形態と機能 c中脳 橋 延髄 d小脳</p> <p>27. 神経系 C脊髄 ①区分②伝導路</p> <p>28. 神経系 D末梢神経 ①脳神経</p> <p>29. 神経系 D末梢神経 ①脳神経</p> <p>30. 神経系 D末梢神経②脊髄神経</p> <p>31. まとめ・振り返り</p> <p>32. 神経系 D末梢神経②脊髄神経</p> <p>33. 神経系 D末梢神経自律神経</p> <p>34. 感覚器 A皮膚</p> <p>35. 感覚器 B視覚器</p> <p>36. 感覚器 C聴覚器</p> <p>37. 感覚器 D聴覚器</p> <p>38. 感覚器 E嗅覚器</p> <p>39. 復習演習</p> <p>40. 後期試験・解説</p>	
準備学習	予習は不要です。復習を重点的にするようにして下さい。授業用プリント1ページにつき、平均1~2個の重要ポイントを伝えます。ここは当日中に理解し、覚えるようにしましょう。		
教科書・教材等	医歯薬出版社 全国柔道整復学校協会 解剖学 授業の度に配布するプリントと確認問題		
授業の形式 教育機器の活用	講義と確認テスト		
成績評価の方法	学期末試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	学期末試験は国家試験と同様の様式でマークシートで行います。 授業内で出題する所は明言しているので授業はちゃんと聞くようにしましょう。		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	解剖学II	担当教官名	岡田 健志
対象学生	1年生	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	40回
授業のキーワード	解剖学は、人体の正常の構造を勉強する学問		
授業の概要 及び到達目標	<p>循環器、消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌器官の基本的解剖学知識を習得することは勿論、その知識を記憶しないといけない理由、背景を生理学、病理学、内科学と関連付けて講義する。柔整師国試問題レベルでは80点以上獲得を目標とするが、それに留まらず、基礎医学の土台を強固にすることにより、今後勉強する予定の臨床医学の内容の理解を容易にすることを目標とする。解剖学教科書に記載されている内容が中心ではあるが、時に生理学や病理学、内科学と関連付けて独自にまとめた内容を板書していたことにより、国家試験や臨床で困った時に復習の中心となりえるようなノート作りをまずは行う。授業の適切な時に必要に応じて問題演習を行うが、あくまでも自分が理解した内容を他人に説明できているかを問うために、問題演習は記述中心で行う。ただし、授業内容、学生の理解に応じて変更する可能性はあり得ます。</p>		
講義計画・内容	<p>1-9回 循環器 10回 まとめ・振り返り 11-15回 消化器 16-19回 呼吸器 20回 前期試験・開設 21-25回 泌尿器 26-30回 生殖器 31回 まとめ・振り返り 32-35回 内分泌 36-39回 総おさらい問題演習 40回 後期試験・解説</p>		
準備学習	特にないが、事前に資料が配布された場合に授業内容をチェックしておくことより効果的である。		
教科書・教材等	解剖学(柔道整復師協会監修)、イラストで学ぶ解剖学、イラストで学ぶ生理学		
授業の形式 教育機器の活用	対面授業、板書が中心(必要に応じて遠隔授業)		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>授業は、自分で知識を学びに行く姿勢が最も重要です。わからないことはそのままにせず、時間中や授業後に質問することを積極的に行ってください。予習は事前に教科書を一読する程度で、主に復習に重点を置き、10分でも20分でも、一つのことでもその日に学んだ知識を確認するよう心掛けて下さい。私の授業は、学生さんが、今後国家試験や卒業後の臨床事象で悩んだ時に、知識確認や考え方の復習のために見直しができるようなノートづくりを行うことが最大の目標です。問題演習では間違った問題を必ず復習することが重要です。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	解剖・運動学	担当教官名	富田 修次
対象学生	第1学年	履修学期	前期・後前期
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	骨・筋肉の基礎を楽しく学ぶ		
授業の概要 及び到達目標	柔道整復師の特性として「解剖学」の中で骨・関節・筋などの運動系について正常な構造を学ぶ。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨の役割・形状による分類・構造・発生と成長・形状についての用語 2. 骨の連結 3. 骨の連結・上肢骨の構成 4. 上肢骨の構成・肩甲骨 5. 鎖骨 肩鎖関節・胸鎖関節 6. 上腕骨 肩関節 中間テスト 7. 橈骨・尺骨 肘関節 8. 手根骨・中手骨・指骨 手の関節 9. 下肢骨の構成 寛骨 10. まとめ(予備日) 11. 試験解説 / 大腿骨 股関節 12. 膝蓋骨・下腿骨 膝関節 13. 足根骨・中足骨・趾骨 14. 縦足弓・横足弓 足関節 15. 骨格筋の形態と起始・停止筋の作用 筋の補助装置 16. 頸部の筋・胸部の筋 17. 呼吸運動・腹部の筋 18. 背部の筋 19. 総まとめ 20. 中間試験・解説 	<ol style="list-style-type: none"> 21. 試験解説 / 上肢帯の筋 22. 上腕の筋・前腕の筋 23. 前腕の筋 24. 手の筋 母指球筋・中手筋・小指球筋 25. 下肢帯の筋 26. 大腿の筋 27. 下腿の筋 28. 下腿の筋・足の筋 29. 総まとめ 30. 期末試験・解説 	
準備学習	授業初めには、前回の授業の復習から始める。また、小テストも行うので日々復習をすること。		
教科書・教材等	「解剖学」改訂第2版 全国柔道整復学校協会 ・骨模型		
授業の形式 教育機器の活用	講義・骨模型 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	学期末試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	柔道整復師の特性としてもっとも理解し、知識として欠かせないものです。国家試験はもちろん、臨床を行ううえでもベースになる部分です。復習を継続し得意科目としてください。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	生理学 I	担 当 教 官 名	糟谷 圭吾
対象学生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	40回
授業のキーワード	神経系、内分泌系による調節機構(ホメオスタシス)、筋収縮とその機序		
授業の概要 及び到達目標	<p>人体の生命現象と正常機能およびその体系の理解特に 等の生命維持に不可欠な機能についての概念を習得し、本授業終了時には各々の生理学的機能について説明ができるようになる。 ※実務者経験 1994～1996 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。 1996～歯科医師として臨床業務に従事。 1998～2000 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟(有病者歯科)における 全身管理業務に従事。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生理学の基礎① 2. 生理学の基礎② 3. 細胞の機能的構造 細胞膜 4. 拡散・浸透・ろ過 5. 受動輸送と能動輸送 膜動輸送 6. 血液の役割 組成 7. 免疫系器官 8. 免疫担当細胞、免疫の機序 抗原抗体反応 9. 血液型と血液凝固機能 総括 10. まとめ・振り返り 11. 体液の区分と水バランス 12. 体液恒常性を維持する仕組み 13. 体液酸塩基平衡の調節機構 14. 神経の基本的機能 15. 静止膜電位、活動電位 16. 活動電位と閾刺激、全か無の法則 17. イオンチャンネルと興奮の伝導 18. 興奮の伝達とシナプス 19. 神経系の生理学 総論部総括 20. 前期定期試験・解説 	<ol style="list-style-type: none"> 21. 神経系の機能 各論 導入部 22. 自律神経系および体性神経系 23. 脊髄神経と脳神経の構成 24. 内臓機能の調節(自律神経系) 25. 内臓反射 26. 内臓機能の視床下部による調節 27. 運動の調節のしくみ 28. 筋紡錘の構造と機能 29. 腱紡錘 体性反射と中枢 総括 30. 試験前まとめ 31. 脊椎反射と反射の協調 32. 臨床上有用な脊椎反射と病的反射 33. 大脳皮質の機能局在 34. 連合野と脳波 35. 脳幹を中心とする運動機能 36. 小脳の機能と機能失調症 37. 大脳基底核と機能異常 不随意運動 38. 大脳皮質の機能分化 39. 神経生理学の総括 40. 後期定期試験・解説 	
準備学習	前もって講義範囲の教科書本文を熟読し疑問点を明確にしておくこと。		
教科書・教材等	「生理学」第4版 全国柔道整復学校協会監修 南江堂		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<p>正常な人体の機能、機序を学ぶ生理学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習して欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい</p>		

令和6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	運動学	担当教官名	上田 純
対象学生	第1学年	履修学期	前期後半・後期
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	身体運動、運動器の構造と機能、反射と随意運動、姿勢、歩行、運動発達、運動学習		
授業の概要 及び到達目標	柔道整復師が患者も診るにあたって、身体の構造だけでなく、それが実際にどのように機能するか理解していることが必要である。解剖学・生理学で学んだ知識が臨床現場でどのように活用されるか橋渡しとなる科目が運動学であり、人体の構造、機能をより実践的に理解できるようになるのを到達目標とする。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動学の目的、運動の表し方 2. 身体運動と力学① 3. 身体運動と力学② 4. 運動器の構造と機能①(骨、関節) 5. 運動器の構造と機能②(骨格筋) 6. 神経の構造と機能①(神経細胞) 7. 神経の構造と機能②(末梢神経) 8. 神経の構造と機能③(中枢神経、伝導路) 9. まとめ 10. 予備日 11. 運動感覚 12. 反射と随意運動 13. 四肢と体幹の運動①(上肢帯・肩関節) 14. 四肢と体幹の運動②(肘関節・前腕・手関節・手) 15. 四肢と体幹の運動③(股関節・膝関節・足関節) 16. 四肢と体幹の運動④(足部・体幹・脊柱) 17. 四肢と体幹の運動⑤(頸椎、胸椎、胸郭) 18. 四肢と体幹の運動⑥(腰椎、仙椎、骨盤、頭部) 19. まとめ 20. 予備日 	<ol style="list-style-type: none"> 21. 四肢と体幹の運動のまとめ 22. 姿勢①(重心、立位姿勢) 23. 姿勢②(抗重力筋、機能肢位) 24. 歩行①(歩行周期、運動学的分析) 25. 歩行②(筋活動、エネルギー代謝、走行) 26. 歩行③(異常歩行) 27. 運動発達 28. 運動学習 29. 総まとめ 30. 学期末試験・解説 	
準備学習	教科書を事前に通読(必要ならば該当範囲の解剖学、生理学も)の上授業に臨むこと		
教科書・教材等	運動学第3版 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版		
授業の形式 教育機器の活用	講義、視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	運動学の理解は、解剖学、生理学、高校物理の理解が前提となります。履修していない科目、分野につきましてはゆっくりと基礎から説明しますので、しっかりと復習して下さい。授業中、随時問題演習をしますので、練習問題の復習もしっかり行って下さい。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	職業倫理	担当教官名	岡田 健志
対象学生	1年生	履修学期	4期
必修・選択の別	必修	授業回数	10回
授業のキーワード	職業倫理、倫理学、生命倫理学、医療倫理学、社会保障制度、柔道整復師としての倫理感		
授業の概要 及び到達目標	<p>一人の人間として、他者の多様な人生観・価値観を受け入れる寛容性、そして医療人に求められる倫理観を身に付け、医療倫理上の問題に適切に対応できることを目標とする。</p> <p>具体的には、患者への説明(インフォームドコンセントとインフォームドアセントの理解)、医療従事者における守秘義務、柔道整復師の社会的責任と対応をテーマに考えさせ、理解することを目標とする。</p> <p>また、柔道整復師として必要とされる倫理的な行動ができるようにする為、柔道整復師が関与する社会保障制度について理解し、説明できることも目標とする。</p>		
講義計画・内容	<p>1回目 オリエンテーション、ガイダンス 「倫理学とは」、「倫理」の思想史、「倫理」の系譜と思想</p> <p>2回目 「医の倫理」の思想史 古代ギリシアの「ヒポクラテスの誓い」から現代の「リスボン宣言」までの「医の倫理」の系譜と思想 医療・医学研究における「生命倫理の4原則」</p> <p>3回目 生命誕生に関わる倫理問題①</p> <p>4回目 生命誕生に関わる倫理問題②</p> <p>5回目 死に関わる倫理問題①</p> <p>6回目 死に関わる倫理問題②</p> <p>7回目 柔道整復師としての倫理・守秘義務について</p> <p>8回目 社会保障制度と受領委任払い</p> <p>9回目 インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント</p> <p>10回目 レポート作成</p>		
準備学習	倫理観は職業にかかわらず、日常でも求められるものである。人間性や社会のモラル、医療従事者における役割など、前もって調べておく必要がある。		
教科書・教材等	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理【全国柔道整復師学校協会監修】医歯薬出版 講師作成プリント		
授業の形式 教育機器の活用	講義、グループワーク		
成績評価の方法	レポート(70%)、出席点(30%)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>将来、柔道整復師として医療にかかわる皆さんには、是非とも患者さんやそのご家族の人生観・価値観を理解・尊重し、一人一人の患者さんに最適で満足の得られる医療を提供でき、それを通して社会へ貢献できる人材となってもらいたと思います。</p> <p>そのために必要な倫理観など基本的事項について学習すると共に、皆さんで討議する時間も入れ、共に考え、答えを出せる力を涵養する授業にしたいと考えています。</p> <p>こうした目標を達成する為に、日ごろから新聞やニュースの倫理に関する問題にも興味を持って下さい。</p>		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	社会保障制度	担 当 教 官 名	高橋 芳貴
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	後期(前半)
必修・選択の別	必修	授業回数	10回
授業のキーワード	保険制度、問診、画像診断、紹介状など		
授業の概要 及び到達目標	柔道整復師として必要な保険の仕組みや施術の流れを理解する。また、日本の社会保障制度についても理解する。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・社会保障制度 2. 社会保障制度 3. 医療保険制度 4. 療養費 5. 障害者保障 6. 児童福祉法 7. 感染症対策 8. 医療の質と安全の確保 9. 医事紛争・医療事故 10. 総まとめ 		
準備学習	前回の授業後に、学んだ事・気づいたこと・疑問などを提出する。		
教科書・教材等	使用しない		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	出席・レポート		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	柔道整復師に必要な知識としての社会保障制度を理解する。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	柔道整復学 I	担当教官名	澤木 秀之
対象学生	第1学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	40回
授業のキーワード	柔道整復術の沿革、柔道整復学の基礎、骨折学総論・各論		
授業の概要 及び到達目標	<p>【前期】 柔道整復術の沿革および骨折学総論を中心とした知識を習得します。 【後期】 頭部、体幹、上肢骨折の各論を中心とした知識を習得します。</p> <p>①柔道整復術の沿革を説明できる。 ②国家試験必修問題レベルの骨折学総論の問題を8割以上正答できる。 ③国家試験必修問題レベルの頭部、体幹、上肢骨折各論の問題を8割以上正答できる。 ④各項目の最重要ポイントを理解し、一問一答形式で答えることができる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(柔道整復術および沿革)P2～10 2. 各組織の損傷(骨の機能と形態)P12～19 3. 各組織の損傷(骨損傷の概説、骨折の分類)P20～24 4. 各組織の損傷(骨折の分類)P24～29 5. 各組織の損傷(骨折の分類)P29～31 6. 各組織の損傷(骨折の症状)P31～33 7. 各組織の損傷(骨折の症状) 8. 各組織の損傷(骨折の合併症) 9. キーワードチェック 10. 予備日 11. 各組織の損傷(骨折の合併症) 12. 各組織の損傷(小児骨折) 13. 各組織の損傷(高齢者骨折) 14. 各組織の損傷 (骨折の癒合日数、骨折の治癒経過) 15. 診察、治療法(整復法) 16. 治療法(整復法) 17. 頭部、体幹(頭部、顔面の骨折) 18. 頭部、体幹(頸椎の骨折) 19. キーワードチェック 20. 前期試験・解説 	<ol style="list-style-type: none"> 21. 頭部、体幹(頸椎の骨折) 22. 頭部、体幹(胸部の骨折) 23. 頭部、体幹(胸椎の骨折) 24. 頭部、体幹(腰椎の骨折) 25. 上肢(鎖骨骨折) 26. 上肢(鎖骨骨折) 27. 上肢(肩甲骨骨折) 28. 上肢(上腕骨近位部の骨折) 29. キーワードチェック 30. 予備日 31. 上肢(上腕骨近位部の骨折) 32. 上肢(上腕骨近位部の骨折) 33. 上肢(上腕骨骨幹部骨折) 34. 上肢(上腕骨骨幹部骨折) 35. 上肢(上腕骨遠位部の骨折) 36. 上肢(上腕骨遠位部の骨折) 37. 上肢(上腕骨遠位部の骨折) 38. 上肢(上腕骨遠位部の骨折) 39. キーワードチェック 40. 後期試験・解説 	
準備学習	<p>【予習】教科書を読んで、分からない項目を調べておくこと。 【復習】各授業のキーワードを、しっかり理解すること。</p>		
教科書・教材等	「柔道整復学・理論編 改定第6版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂		
授業の形式 教育機器の活用	講義、パワーポイント		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>柔道整復師国家試験に合格するために、とても重要な科目の基礎になります。 最初は知らない単語だらけで、難しく感じることもあるかもしれませんが、一緒にコツコツ頑張りましょう。 授業中は、話を聞いてしっかりメモを取ってください。ノートを写すだけの作業にならないように注意しましょう。</p>		

R6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	柔道整復学Ⅱ	担 当 教 官 名	三村 賢吾
対象学生	第1学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	40回
授業のキーワード	関節の損傷		
授業の概要 及び到達目標	<p>【前期】関節部の損傷についての基礎的な知識と治療法について学ぶ。</p> <p>【後期】頭部・体幹・上肢の軟部組織損傷や脱臼について学ぶ。</p> <p>①国家試験問題と同等のレベルの問題を80%以上正解できる。 ②暗記ではなく内容を理解し、自ら説明できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関節の損傷 2. 関節の損傷 3. 関節の損傷 4. 筋の損傷 5. 腱の損傷 6. 神経の損傷 7. 復習 8. 神経の損傷 9. 診察 10. 治療法(整復法) 11. 治療法(整復法) 12. 治療法(固定法) 13. 治療法(後療法・手技療法) 14. 治療法(後療法・手技療法) 15. 治療法(後療法・運動療法) 16. 治療法(指導管理) 17. 治療法(指導管理) 18. 復習 19. まとめ 20. 期末試験 	<ol style="list-style-type: none"> 21. 頭部、顔面部の軟部組織損傷 22. 顎関節脱臼 23. 頸部の軟部組織損傷 24. 頸部の軟部組織損傷 25. 頸椎脱臼 26. 胸・背部の軟部組織損傷 27. 胸椎の脱臼 28. 腰部の軟部組織損傷 29. 腰腰椎の脱臼 30. 復習 31. 肩関節の軟部組織損傷 32. 肩関節の軟部組織損傷 33. 胸鎖関節脱臼 34. 肩鎖関節脱臼 35. 復習 36. 肩関節脱臼 37. 肩関節脱臼 38. 復習 39. まとめ 40. 期末試験 	
準備学習	解剖学で学ぶ内容は事前に学習し、理解しておく。		
教科書・教材等	柔道整復学・理論編 改訂第7版		
授業の形式 教育機器の活用	パワーポイントにての講義を主に行う。		
成績評価の方法	定期試験により評価する		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<ol style="list-style-type: none"> 1、全出席を目標 2、各週の予習を怠らない(読めない漢字は調べておく) 3、復習はその日のうちに行う 		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	物理療法機器等の取扱い	担当教官名	富田 納次
対象学生	第1学年	履修学期	後期・後半
必修・選択の別	必修	授業回数	10回
授業のキーワード	物理療法機器等の取扱い		
授業の概要 及び到達目標	接骨院で取り扱う物理療法について理解する。また最新の機器を体験する。超音波エコーの取扱いについて理解する。基礎的な使用方法について学ぶ。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 柔道整復師の業務について 2. 物理療法 3. 物理療法 4. 物理療法の体験 5. 超音波エコー理論 6. 超音波エコー理論 7. 超音波エコー実技 8. 超音波エコー実技 9. まとめ 10. 試験解説 		
準備学習	事前に教科書を読んで学習しておく。		
教科書・教材等	柔道整復学・理論編 改訂第6版		
授業の形式 教育機器の活用	講義・実技		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	接骨院で使用する物理療法について学ぶ。また物理療法を取り扱う上での禁忌は理解し、絶対にミスを犯さないようにする。また、物理療法を使用する際の患者に対する気配りについても理解する。医療・スポーツ現場で使用する超音波エコーの使用方法について理解する。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	基礎柔道整復実技 I	担当教官名	青山武春
対象学生	1年生	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	45回
授業のキーワード	身体への触診方法の取得・関節可動域・膝、足関節に対するテーピングを使つての固定法		
授業の概要及び到達目標	四肢体幹の骨・筋肉靭帯の正確な場所を覚える。また、身体の運動機能を十分に理解する。それによって、日常の動作やスポーツの際に障害が生じたときに、適切に身体の部位を触察できる能力が身に付く。		
講義計画・内容	1. 触診の基本 【立位肢位・運動の面、軸、方向・姿勢の表し方】 2. 触診の基本・関節運動(ROM) 3. 肩甲骨の触診・鎖骨の触診・肩鎖関節 4. 上腕骨の触診 5. 橈骨・尺骨の触診・腕頭関節・腕尺関節 6. 手根骨の触診 7. 予備日 8. 骨盤の触診 9. 実技まとめ 10. 試験週間 11. 大腿骨の触診・膝蓋骨・膝関節関節裂隙 12. 脛骨・腓骨・膝周辺の触診 13. 足関節・足部の触診 14. 予備日 15. 肩甲上腕関節に関わる筋 16. 肘関節に関わる筋 17. 手関節及び手指に関わる筋 18. 試験前の総復習【試験の流れの説明】 19. 実技まとめ 20. 試験週間 21. 試験解説 22. 特別講義	23. 前期のおさらい① 24. 股関節に関わる筋① 25. 股関節に関わる筋② 26. 膝関節に関わる筋② 27. 膝関節に関わる筋① 28. 足関節および足部に関わる筋① 29. 足関節および足部に関わる筋① 30. テスト前 総復習 31. 実技まとめ 32. 試験週間 33. テーピングの基礎知識① 34. テーピングの基礎知識② 35. 足関節のテーピング固定①【バスケットウィーブ固定法】 36. 足関節のテーピング固定②【バスケットウィーブ固定法】 37. 足関節のテーピング固定③ 【フィギュアエイト・ヒールロック固定法】 38. 足関節のテーピング固定④ 【フィギュアエイト・ヒールロック固定法】 39. 膝関節のテーピング固定①【Xサポート】 40. 膝関節のテーピング固定②【Xサポート】 41. 試験前 総復習【試験の流れの説明】 42. 試験前 総復習 43. 解説週&再試験日 44. 合同実技まとめ 45. 合同実技まとめ	
準備学習	事前に教科書を読んでおくこと		
教科書・教材等	運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢・下肢		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	実技による定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	機能を改善するためのリハビリテーション訓練をすすめる際に、四肢体幹の動きを正確に理解していくおくことが必要です。体表解剖の教材を用いたり、実際に起こりうる怪我等を例に出しながら技術習得をめざしてまいりますので、現場を意識した勉強をしていきましょう。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	基礎柔道整復実技Ⅱ	担当教官名	米女 博司
対象学生	第1学年	履修学期	1・2・3・4期(通年)
必修・選択の別	必修	授業回数	45回
授業のキーワード	基本包帯法 冠名包帯法など		
授業の概要 及び到達目標	<p>外傷の整復後の再転位、再脱臼の予防、及び患部の安静保持を目的とし、固定用の非収縮性包帯の基本的な巻き方、基本包帯法(環行、螺旋、蛇行、折転、麦穂、亀甲)、冠名包帯法(ウエルポー、ジュール、デゾー)の修得を目的とする。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包帯法の基本的理論を理解。 ・患部を被覆する際の助手の使い方を修得する。 ・基本包帯法、冠名包帯法の理論と走行を理解する。 ・基本包帯法、冠名包帯法を使って種々の外傷に対する固定が出来るようになる。 		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション:包帯固定学を学ぶための心構えや目標に対する準備と行動、結果について理解できる。 2. 包帯固定学総論、基本包帯(巻き始め巻き終わり)起始の取り方と環行帯について理解できる。 3. 起始の取り方 練習を行い出来るようになる1 4. 環行、螺旋、折転を説明、練習を行い出来るようになる1 5. 環行、螺旋、折転を説明、練習を行い出来るようになる2 6. 環行、螺旋、折転を説明、練習を行い出来るようになる3 7. 麦穂帯を練習し出来るようになる。1(手関節) 8. 麦穂帯を練習し出来るようになる。2(肩関節) 9. 麦穂帯を練習し出来るようになる。3(手・肩関節) 10. 定期試験と解説 11. 亀甲帯を練習し出来るようになる。1(肘関節) 12. 亀甲帯を練習し出来るようになる。2(足関節) 13. 亀甲帯を練習し出来るようになる。3(肘・足関節) 14. デゾー包帯を練習し出来るようになる。1 15. デゾー包帯を練習し出来るようになる。2 16. ウエルポー・ジュール包帯を練習し出来るようになる。1 17. ウエルポー・ジュール包帯を練習し出来るようになる。2 18. ウエルポー・ジュール包帯を練習し出来るようになる。3 19. 基本・冠名包帯を総合的に練習し出来るようになる。1 20. 基本・冠名包帯を総合的に練習し出来るようになる。2 21. 学期末試験 22. 試験解説 23. 特別講義 	<ol style="list-style-type: none"> 24. 診るとは…聴くとは…患者の診方 手順を理解 肘部の局所解剖 肘内障 25. 肘内障 診察手順を理解し整復法を練習2 26. 肘内障 診察手順を理解し整復法を練習3 27. 鎖骨骨折 固定肢位の保持をし固定を練習1 28. 鎖骨骨折 固定肢位の保持をし固定を練習2 29. 鎖骨骨折 固定肢位の保持をし固定を練習3 30. 鎖骨骨折 固定肢位の保持をし固定を練習4 31. 第5中手骨頸部Fx. 固定肢位の保持をし固定を練習1 32. 第5中手骨頸部Fx. 固定肢位の保持をし固定を練習2 33. 定期試験と解説 34. 第5中手骨頸部Fx. 固定肢位の保持をし固定を練習3 35. 肋骨骨折 固定肢位の保持をし固定を練習1 36. 肋骨骨折 固定肢位の保持をし固定を練習2 37. 肋骨骨折 固定肢位の保持をし固定を練習3 38. 第2PIP背側Dis.固定肢位の保持をし固定を練習1 39. 第2PIP背側Dis.固定肢位の保持をし固定を練習2 40. 第2PIP背側Dis.固定肢位の保持をし固定を練習3 41. 足部外側靭帯損傷 固定肢位の保持をし固定を練習1 42. 足部外側靭帯損傷 固定肢位の保持をし固定を練習2 43. 足部外側靭帯損傷 固定肢位の保持をし固定を練習3 44. 学期末試験 45. 試験解説 	
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅でも家族の方に協力願って出来るだけ数多く包帯を巻く練習をする。 ・包帯巻器だけを使用するのではなく、自宅では手で巻き戻す練習をする。 		
教科書・教材等	<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>教科書:包帯固定学、解剖、配布資料</p>		
授業の形式 教育機器の活用			
成績評価の方法	<p>前期:学期末実技試験 80%+学科試験20% に出欠席を考慮して評価する。</p> <p>後期:学期末実技試験100%に出欠席を考慮して評価する。</p>		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>技術の向上は正しい練習の繰り返し以外ありません。ある一定の速さをもって、患部に均等な圧がかかるようにきれいに包帯が巻くことが出来るように日ごろから友人や家族に協力してもらい、数多く包帯を巻く練習をするように心がけること。</p>		

令和6年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	プレゼンテーション論Ⅱ	担 当 教 官 名	深津 富栄
対 象 学 生	2年生	履 修 学 期	後期の後半
必修・選択の別	必修	授業回数	10回
授業のキーワード	情報処理スキルアップ Word Excel PowerPoint プレゼンテーション		
授業の目標及び期待される学習効果	<p>【授業の目標】 コンピューターの基礎的な操作方法から応用までを学び、Word・Excel・PowerPointなど、ソフトウェアの効率的で実践に役立つ操作方法を取得します。またレポート作成・プレゼンテーションの企画、構成、資料作成、発表のスキルも身に付けていきます。</p> <p>【期待される学習効果】 ・Word、Excel、PowerPointの実践に役立つ操作方法の習得 ・プレゼンテーションの企画・作成・発表のスキル ・資料作成(レポート作成等)の質と作業効率のアップ ・就職後のOA処理業務に役立つ ・自信につながる ・就職活動時にパソコンスキルをアピール出来る</p> <p>Microsoft オフィシャル・トレーナーとして、2000年より滋慶学園・大学で情報処理・MOS対策授業の教鞭を取り、約1万人近くを合格に導いています。</p>		
授業の概要	1回目:Word2016① 2回目:Word2016② Word課題 3回目:PowerPoint2016① 4回目: PowerPoint2016② 5回目: PowerPoint2016③ 6回目: PowerPoint2016④ 7回目: PowerPoint2016⑤ 8回目: PowerPoint2016⑥ プレゼンテーション発表 9回目: Excel2016① 10回目: Excel2016② Excel課題		
授業内容のレベル	基礎レベル(Word・Excel)～応用レベル(PowerPoint)		
教科書・教材等	よくわかる Word2016&Excel2016&PowerPoint2016 FOM出版		
授業の形式、視聴覚機器の活用	講義と実技、コンピュータ使用		
成績評価の方法	Word課題30% Excel課題30% PowerPoint課題(発表)30% 平常点10%		
担当教官から	WordやExcel、PowerPointなどのオフィスワーク必須のアプリケーションを適正かつ効率的に使いこなせるよう、スキルアップを目指していきます。またタイピングやプレゼンテーションの作成・発表なども取り入れ、一般社会のOA処理業務でも、効率的で質の良い資料作成やプレゼンテーションが作成出来るように指導していきます。 効率よく質の高い資料を作成出来るようスキルアップを目指していきましょう。		

R6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	医学英語	担 当 教 官 名	橋本 萌子
対 象 学 生	第2学年	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	20回
授業のキーワード	医療現場での英語コミュニケーション		
授業の概要 及び到達目標	海外研修や、専門分野へ進む時に備え、英語でのコミュニケーションスキルを養う。診断、患者や同僚に対する医療的な説明、患者へのヒアリングなどをロールプレイを始めとする会話練習を通して習得する。医療の現場でどのように英語でコミュニケーションを取っていくかを学ぶ。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、Ch.1 問診表の英語表現① 2. Ch.1 問診表の英語表現② 3. Ch.2 病院案内①(道案内) 4. Ch.2 病院案内② 5. Ch.3 症状(痛み)① 6. Ch.3 症状(痛み)② 7. Ch.4 症状(その他)① 8. Ch.4 症状(その他)② 9. これまでの復習 10. Ch.5 問診(既往症・家族歴) 11. Ch.6 問診(アレルギー・生活習慣) 12. Ch.7 内科(身体計測・診察時の表現) 13. Ch.12 整形外科・接骨院 14. Ch.12 整形外科・接骨院 15. Ch.13 リハビリテーション(検査時の表現)① 16. Ch.13 リハビリテーション(検査時の表現)② 17. Ch.14 リハビリテーション(筋肉の名称)① 18. Ch.14 リハビリテーション(筋肉の名称)② 19. 総復習 20. 試験&試験解説 		
準備学習	高校までに習った英語の復習を行う。		
教科書・教材等	医療英語コミュニケーションテキスト		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	受身の姿勢ではなく、自分から発信し、積極的な姿勢で授業に参加してください。英語を楽しく学びましょう。分からない時は遠慮せずに先生に質問してください。		

R6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	生理学Ⅱ	担 当 教 官 名	糟谷 圭吾
対 象 学 生	第2学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	40回
授業のキーワード	神経系、内分泌系による調節機構(ホメオスタシス)、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝		
授業の概要 及び到達目標	<p>人体の生命現象と正常機能およびその体系の理解特に 等の生命維持に不可欠な機能についての概念を習得し、本授業終了時には各々の生理学的機能について説明ができるようになる。 ※実務者経験 1994～1996 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。 1996～歯科医師として臨床業務に従事。 1998～2000 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟(有病者歯科)における 全身管理業務に従事。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実力試験 筋紡錘の構造と機能の復習 2. 腱紡錘 体性反射の復習 感覚受容器 3. 特殊感覚 視覚 4. 特殊感覚 聴覚 平衡感覚 5. 特殊感覚 味覚 嗅覚 6. 体性感覚 皮膚感覚 深部感覚 7. 内臓感覚 臓器感覚 痛覚 痛みの分類 8. 発痛物質 痛覚伝導路 疼痛抑制機序 9. 感覚の生理学の総括 国家試験演習 10. 中間試験と解説講義 11. 循環器の構造と機能 12. 心筋の基本的性質 心電図 13. 血管系の構造と機能 14. リンパ管系の構造と機能 15. 循環の調節 神経性調節 16. 循環の調節 体液性調節 17. 局所循環 18. 脳脊髄循環 19. 循環器系の生理学 総合演習 20. 前期定期試験と解説講義 	<ol style="list-style-type: none"> 21. 呼吸の生理学 呼吸器の機能的構造 22. 換気 肺胞内圧と胸膜腔内圧 23. 換気量、残気量、スパイログラム 24. 肺胞換気量と死腔 25. 呼吸のための仕事 26. ガス交換、呼吸調節機構 27. 呼吸の異常 28. 腎臓および泌尿器系の構造 29. 尿の生成と機能 30. 排尿 腎臓による体液の調節 31. 中間試験と解説 32. 生体に必要な栄養素 ミネラル 33. 栄養と代謝 ビタミン、ATP合成 34. 中間代謝 エネルギー代謝 35. エネルギー代謝量の測定 36. 各種のエネルギー代謝 37. 消化器系の解剖 運動と調節 38. 消化液分泌機序 消化管ホルモン 39. 各栄養素の消化と吸収 40. 後期定期試験と解説講義 	
準備学習	講義予定範囲の教科書本文を熟読し理解できない部分をまとめておくこと		
教科書・教材等	「生理学」第4版 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>正常な人体の機能、機序を学ぶ生理学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習して欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	高齢者・競技者の生理学的特徴・変化	担当教官名	上田 純
対象学生	第2学年	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	20回
授業のキーワード	高齢者の生理学的変化と特徴、高齢社会、競技者の生理学的変化と特徴、スポーツ振興		
授業の概要 及び到達目標	我が国は超高齢化社会が世界に先駆けて到来しているが、当然臨床現場に出ると患者の多くは高齢者となる。高齢者の生理的特徴を理解することで、臨床現場において高齢者への対応能力を身につける。また、柔道整復師がアスリートの生理的特徴を理解することも非常に重要である。競技者である患者に対応するのに競技者ならではの生理学的特性を身につける。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞・組織の加齢的变化 2. 体液と加齢的变化 3. 神経系の加齢的变化 4. 運動器系の加齢的变化 5. 循環器系の加齢的变化 6. 呼吸器系・消化器系の加齢的变化 7. 高齢者に多い疾患・障害 8. 運動と加齢 9. 1～9回のまとめ・復習 10. 中間試験と解説 11. 成長と運動器 12. 呼吸・循環器と運動 13. オーバートレーニング 14. 歩行・走行 15. 持久力とトレーニング 16. トレーニングと心肺機能 17. トレーニングと姿勢 18. 2期のまとめ・復習 19. 2期のまとめ・復習 20. 定期試験と解説講義 		
準備学習	該当範囲の解剖学、生理学、運動学の教科書の通読等の知識の整理を行って授業に臨むこと		
教科書・教材等	生理学改訂第4版 南江堂		
授業の形式 教育機器の活用	講義、視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	高齢者と、競技者特有の生理学的変化を理解するには、まず一般の健康成人の状態を理解することからはじまります。生理学、運動学の復習も行いますので、1年生の知識のまとめを各自行っておいて下さい。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	病理学	担当教官名	杉山 文枝
対象学生	第2学年	履修学期	1・2・3期(前期・後前期)
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	国家試験に合格できる知識を着ける		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の前に先週の授業のポイントの復習をする。それにより知識の定着をはかる。 教科書とプリントを使い、必要に応じて板書をし、病気になるまでのメカニズムを説明・理解できる。 実務者経験:2002年より国家試験受験を目指す医療系専門学校で講師を務めています</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 方法、観察方法 2. 意義と分類、経過 3. 萎縮:生理的、貧血性、廃用性 4. 変性:蛋白質、脂肪、糖原、石灰化 5. 代謝障害:痛風、結石、色素、鉄、胆汁、糖尿病 6. 壊死:壊死とアポトシス、死 7. 充血、うっ血、虚血、出血 8. 血栓症(機序、部位、運命) 9. 塞栓症、梗塞 10. 中間試験と解説講義 11. リンパ液の循環障害(浮腫、脱水) 12. 肥大・過形成…代償性肥大、仮性肥大 13. 再生、化生、永久細胞、安定細胞、不安定細胞 14. 創傷治癒、異物の処理(骨折の治癒) 15. 移植、拒絶反応、再生医学、まとめ 16. 原因・形態学的変化・経過による分類 17. 形態による分類・滲出性・増殖性・特異性・炎 18. 免疫の仕組み(細胞性・液性) 19. 免疫不全(先天性・後天性) 20. 前期試験と解説講義 	<ol style="list-style-type: none"> 21. 自己免疫疾患 22. アレルギーの5型 23. 腫瘍の定義、肉眼的(外形、色、硬さ等) 24. 細胞・形態・細胞骨格・腫瘍マーカー 25. 発生の機序、前癌病変、不顕性癌 26. 生体への影響(局所・全身) 27. 原因(外因:ウイルス、内因:ホルモン遺伝子など) 28. 良性腫瘍と悪性腫瘍(発育速度・境界など) 29. 主要な癌 (胃・肺・大腸・肝・腎・子宮・乳・小児癌) 30. 後期試験と解説講義 	
準備学習	身近な人達の病気などに気を留め、いろいろな話をきくようにしましょう。		
教科書・教材等	病理学概論 医歯薬出版		
授業の形式 教育機器の活用	教科書を中心に行う		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	分かりやすい授業をこころがけます。質問はいつでも受けます。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	一般臨床医学	担当教官名	福間 英記
対象学生	第2学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	40回
授業のキーワード	プリント中心に授業をすすめます。テキストは復習時に自身で読んでください。		
授業の概要及び到達目標	<p>柔道整復師の専門領域は骨、筋など運動器です。施術場面では①患者の全身を診る機会が多い②患者との対話の時間が長いという特徴があります。</p> <p>したがって、運動器以外の疾患と接触する機会も多いと考えられるため、特に内科的疾患の知識を当講座で学習する必要があります。</p> <p>これは皆さんの患者さんの利益、皆さんと患者さんとの信頼関係の醸成に大いに寄与すると考えています。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診察概論・医療面接 2. 体格・体型・体位・姿勢 3. 精神状態・異常運動・麻痺・運動失調 4. 歩行の異常・皮膚の状態 5. 頭部、顔面の視診 6. 胸部・四肢の視診 7. 打診 8. 聴診(肺・心臓) 9. 聴診(腹部) 10. 中間試験と解説講義 11. 触診① 12. 触診②・生命徴候 13. 感覚検査・反射検査・代表的な臨床症状 14. 呼吸器疾患① 15. 呼吸器疾患② 16. 呼吸器疾患③・循環器疾患① 17. 循環器疾患② 18. 予備日 19. 前期期末試験前まとめ 20. 前期期末試験と解説講義 	<ol style="list-style-type: none"> 21. 循環器疾患③ 22. 消化器疾患① 23. 消化器疾患② 24. 消化器疾患③ 25. 代謝疾患 26. 内分泌疾患① 27. 内分泌疾患② 28. 血液疾患① 29. 血液疾患② 30. 予備日 31. 第3期テスト 32. 腎尿路疾患① 33. 腎尿路疾患②・神経疾患① 34. 神経疾患② 35. 神経疾患③ 36. 感染症 37. 膠原病① 38. 膠原病② 39. 後期期末試験前まとめ 40. 後期期末試験と解説講義 	
準備学習	内容は多岐にわたるため、毎回の復習を欠かさないでください。たとえ短時間の復習でも学習内容の記憶に関して大いに貢献します。反対に全く復習しないと、驚くほど速やかに記憶は失われ授業に参加した意味もなくなります。		
教科書・教材等	一般臨床医学 第3版 南江堂		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験(前期1回・後期1回)80% 平常点(出席率・小テストなど)20%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	試験はプリントから出題します。(プリントに書いてないことは出題しません。)		

令和 6 年度年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	外科学概論	担 当 教 官 名	岡田 健志
対象学生	2年生	履 修 学 期	1・2・3期
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	外科学は、患者様が安全に手術を受けられるようにするために必要な知識を習得する学問		
授業の概要 及び到達目標	手術内容とその適応を理解することは勿論、術前診察、術中管理、術後管理の流れ、麻酔管理についても理解していただく。柔整師国試問題レベルでは80点以上獲得を目標とする。外科学教科書に記載されている内容が中心ではあるが、時に生理学や病理学、解剖学などの基礎医学分野や内科学などの他の臨床医学と関連付けて独自にまとめた内容を板書していただくことにより、国家試験や臨床で困った時に復習の中心となりえるようなノート作りをまずは行う。授業の適切な時に必要に応じて問題演習を行うが、あくまでも自分が理解した内容を他人に説明できているかを問うために、問題演習は記述中心で行う。ただし、授業内容、学生の理解に応じて変更する可能性はあり得ます。		
講義計画・内容	1回 外科学とは。 2回 損傷と創傷 3回 熱傷 4-5回 炎症と外科感染症 6-8回 腫瘍 9回 ショック 10回 中間試験と解説講義 11回-12回 ショック 13-16回 輸血と輸液 17回 消毒と滅菌 18回 手術 19回 麻酔 20回 振り返り授業日 21回 麻酔 22-23回 移植と免疫 24-25回 出血と止血 26-28回 心肺蘇生 29回 予備日 30回 定期試験と解説講義		
準備学習	特にないが、事前に資料が配布された場合に授業内容をチェックしておくことより効果的である。		
教科書・教材等	外科学概論(柔道整復師協会監修)、必要に応じて授業用資料を配布する		
授業の形式 教育機器の活用	対面授業、板書が中心(必要に応じて遠隔授業)		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	授業は、自分で知識を学びに行く姿勢が最も重要です。わからないことはそのままにせず、時間中や授業後に質問することを積極的に行って下さい。予習は事前に教科書を一読する程度で、主に復習に重点を置き、10分でも20分でも、一つのことでもその日に学んだ知識を確認するよう心掛けて下さい。私の授業は、学生さんが、今後国家試験や卒業後の臨床事象で悩んだ時に、知識確認や考え方の復習のために見直しができるようなノートづくりを行うことが最大の目標です。問題演習では間違った問題を必ず復習することが重要です。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	リハビリテーション医学	担当教官名	福間 英記
対象学生	第2学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	40回
授業のキーワード	プリント中心に授業をすすめます。テキストは復習時に自身で読んでください。		
授業の概要 及び到達目標	リハビリテーションの視点から、障害者や高齢者など不自由を抱えて生活している人々と正しく向き合うことができ、その福祉の場面において専門性を発揮できるようになることを目標とします。具体的には、①リハビリテーション医学の考え方を理解する。②障害者が抱えている問題点、また潜在能力の正確な把握、多職種との情報共有ができる。③リハビリテーションの基本的な手法について理解する。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの理念・QOL 2. リハビリテーションの対象 3. ICFとICIDHについて 4. ICFとICIDHについて 5. 評価学①(身体計測・身体所見・小児発達) 6. 評価学②(ADL) 7. 評価学③(心理的評価・認知症等) 8. 評価学④(画像診断など) 9. 予備日 10. 中間試験と解説講義 11. 評価学⑤(運動失調)障害学①(関節拘縮) 12. 障害学②(筋力低下・神経麻痺・摂食障害) 13. 障害学③(高次脳機能障害・失語) 14. 障害学④(ライフサイクル各段階の障害) 15. 治療学①(受容、廃用症候群・関節拘縮) 16. 治療学②(筋力増強・慢性疼痛) 17. 治療学③(歩行練習) 18. 予備日 19. 前期期末試験前まとめ 20. 前期期末試験と解説講義 	<ol style="list-style-type: none"> 21. 治療学④(全身運動・リスク管理等) 22. 理学療法 23. 作業療法 24. 言語聴覚療法 25. 補装具① 26. 補装具② 27. 高齢者のリハビリテーション 28. 骨粗鬆症 29. 上肢損傷後症候群 30. 試験前まとめ 31. 第3期試験 32. 下肢損傷後症候群 33. 頸肩腕症候群の病態とアプローチ 34. 腰痛症の病態とアプローチ 35. アキレス腱断裂へのアプローチ 36. リハビリテーションと福祉 37. 障害者スポーツ 38. 予備日 39. 後期期末試験前まとめ 40. 後期期末試験と解説講義 	
準備学習	内容は多岐にわたるため、毎回の復習を欠かさないで下さい。たとえ短時間の復習でも学習内容の記憶に関して大いに貢献します。反対に全く復習しないと、驚くほど速やかに記憶は失われ授業に参加した意味もなくなります。		
教科書・教材等	リハビリテーション医学 第4版 南江堂		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験 80% 平常点(出席率・小テストなど)20%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	試験は主にプリントから出題します。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	柔道整復学の適応	担当教官名	松本 治夫
対象学生	第2学年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	20回
授業のキーワード	臨床の現場に出て役に立つ知識を身につける		
授業の概要 及び到達目標	<p>筋骨格系の外傷(特にスポーツ外傷)に果たす柔道整復師の役割は大きい。適切な診断は確実な治療に繋がる。そのためには注意深い問診及び身体診察が必須となる。本講義では、下記に示す内容を到達目標として進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遭遇した外傷の状態把握を行うことができる。 2. 患者本人及び家族に状態の説明ができる。 3. 状態の改善方法(治療方法)を提案、提示することができる。 		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 柔道整復術の適否を考える 2. 損傷に類似した症状を示す疾患(その1) 3. 損傷に類似した症状を示す疾患(その2) 4. 損傷に類似した症状を示す疾患(その3) 5. 血流障害を伴う損傷 6. 末梢神経損傷を伴う損傷 7. 末梢神経損傷を伴う損傷 8. 末梢神経損傷を伴う損傷 9. 脱臼骨折 10. 振り返り授業 11. 外出血を伴う損傷 12. 病的骨折及び脱臼 13. 意識障害を伴う損傷(その1) 14. 意識障害を伴う損傷(その2) 15. 脊髄症状のある損傷 16. 呼吸運動障害を伴う損傷 17. 内蔵損傷の合併が疑われる損傷 18. 内蔵損傷の合併が疑われる損傷 19. 高エネルギー外傷 20. 定期試験と解説講義 		
準備学習	解剖・生理の知識が基礎となります。復習を行って下さい。		
教科書・教材等	医療の中の柔道整復 南江堂		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式		
成績評価の方法	課題提出・定期試験を総合的に評価		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	外傷に対する理解は広く臨床の知識を必要とします。そのための説明をさらに追加して講義を進めていきます。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	柔道Ⅰ	担当教官名	打味 裕子 / 埴岡 孝之
対象学生	第2学年	履修学期	後期・後半
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	礼法、前回受身		
授業の概要及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の基準での指導だけでなく認定実技の審査項目に沿った礼法、受身を習得できる。 ・怪我はもちろん重篤な障害を残す可能性のある頭を打つ様な行爲がない受身ができる。 ・礼法はメリハリのある動きが出来、角度、手幅、足幅も理解している。 ・身嗜みは柔道着の着方、帯が動作をした際にほどけないようにできる。 		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身嗜み・礼法 2. 礼法、受身(問題点のチェック) 3. 礼法、受身(前転、横回転の修正方法) 4. 礼法、受身(正しい手のつき方) 5. 礼法・受身(大きな受身の方法) 6. 試験の説明、礼法、受身 7. 試験練習 8. 試験練習 9. 総復習・演習 10. 試験解説 11. 特別講義 12. 特別講義 13. 特別講義 14. 特別講義 15. 特別講義 		
準備学習	授業で行った内容を必ず次の授業までに柔道場に来て復習する。		
教科書・教材等	実技・柔道の教科書		
授業の形式 教育機器の活用	実技		
成績評価の方法	実技試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	強くなる為の授業ではなく絶対に怪我をしない為に必要な事を身に付ける授業です。自分の身を守るためにしっかりと受身を身に付け3年次の柔道実技に備えるようにして下さい。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	柔道整復学Ⅲ	担当教官名	原田 麻史
対象学生	第2学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	40回
授業のキーワード	上肢骨折の各論、下肢骨折の各論、原因、分類、症状、合併症、予後		
授業の概要 及び到達目標	<p>【前期】 上肢骨折の各論を中心とした知識を習得します。 【後期】 下肢骨折の各論を中心とした知識を習得します。</p> <p>①国家試験レベルの上肢骨折各論の問題を7割以上正答できる。 ②国家試験レベルの上肢骨折各論の問題を7割以上正答できる。 ③各項目の最重要ポイントを理解し、一問一答形式で答えることができる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前腕骨近位端部の骨折① 2. 前腕骨近位端部の骨折② 3. 前腕骨近位端部の骨折③ 4. 前腕骨幹部骨折① 5. 前腕骨幹部骨折② 6. 前腕骨幹部骨折③ 7. 前腕骨遠位端部骨折① 8. 前腕骨遠位端部骨折② 9. 前腕骨遠位端部骨折③ 10. 1セメの振り返り 11. 手根骨部の骨折① 12. 手根骨部の骨折② 13. 中手骨部の骨折① 14. 中手骨部の骨折② 15. 中手骨部の骨折③ 16. 指骨の骨折① 17. 指骨の骨折② 18. 指骨の骨折③ 19. 前期の振り返り 20. 前期末試験と解説講義 	<ol style="list-style-type: none"> 21. 骨盤骨骨折① 22. 骨盤骨骨折② 23. 大腿骨近位端部骨折① 24. 大腿骨近位端部骨折② 25. 大腿骨骨幹部骨折 26. 大腿骨遠位端部骨折① 27. 大腿骨遠位端部骨折②、膝蓋骨骨折 28. 下腿近位端部骨折① 29. 下腿近位端部骨折② 30. 3セメの振り返り 31. 下腿骨骨幹部骨折① 32. 下腿骨骨幹部骨折② 33. 下腿骨骨幹部骨折③ 34. 下腿骨遠位端部骨折、足関節の脱臼骨折① 35. 下腿骨遠位端部骨折、足関節の脱臼骨折② 36. 足・足指(趾)骨折① 37. 足・足指(趾)骨折② 38. 中足骨骨折、趾骨骨折 39. 後期の振り返り 40. 後期末試験と解説講義 	
準備学習	柔道整復学総論の復習、解剖学(運動器系)の復習		
教科書・教材等	『柔道整復学・理論編 改定第7版』全国柔道整復学校協会監修 南江堂、プリント		
授業の形式 教育機器の活用	講義、パワーポイント		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>1年生で学習した知識をフル活用し、さらに骨折学の知識を深めていきましょう。 分からないところはそのままにせず、どんどん質問してください。 授業中は、話を聞いてしっかりメモを取ってください。 板書を写すだけの作業にならないように注意してください。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門分野		
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅰ	担 当 教 官 名	黄海 匡士		
対 象 学 生	第2学年	履 修 学 期	通年		
必修・選択の別	必修	授業回数	40回		
授業のキーワード 上肢・下肢の脱臼、軟部組織損傷					
授業の概要 及び到達目標	<p>柔道整復師において脱臼や軟部組織損傷の病態、治療法、及び固定に際しての知識は必須である。本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①脱臼および軟部組織損傷の病態について理解し、説明できる。 ②脱臼および軟部組織損傷の治療法について理解し、説明できる。 ③脱臼および軟部組織損傷の固定・後療法等について理解し、説明できる。 ④柔道整復師としての臨床現場でのスキル向上を到達目標とする。</p>				
講義計画・内容	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 肘関節後方脱臼 2. 肘関節前方脱臼～肘内障 3. 手関節脱臼・手指の脱臼Ⅰ 4. 手関節脱臼・手指の脱臼Ⅱ 5. 手関節脱臼・手指の脱臼Ⅲ 6. 上肢脱臼のまとめ 7. 肩の軟部組織損傷Ⅰ 8. 肩の軟部組織損傷Ⅱ 9. 肩の軟部組織損傷Ⅲ 10. 肩の軟部組織損傷Ⅳ 11. 上腕～肘の軟部組織損傷Ⅰ 12. 肘～前腕の軟部組織損傷Ⅰ 13. 肘～前腕の軟部組織損傷Ⅱ 14. 末梢神経損傷Ⅰ 15. 末梢神経損傷Ⅱ 16. 末梢神経損傷Ⅲ 17. 手関節～手指部の障害Ⅰ 18. 手関節～手指部の障害Ⅱ 19. 予備日 20. 前期試験 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 21. 試験解説/股関節脱臼Ⅰ 22. 股関節脱臼Ⅱ 23. 膝関節脱臼 24. 膝蓋骨脱臼 25. 足部～足趾部の脱臼 26. 下肢脱臼のまとめ 27. 股関節の軟部組織損傷 28. 股関節の疾患 29. 大腿部の損傷 30. 膝関節の軟部組織損傷Ⅰ 31. 膝関節の軟部組織損傷Ⅱ 32. 膝関節の軟部組織損傷Ⅲ 33. 下腿部の軟部組織損傷Ⅰ 34. 下腿部の軟部組織損傷Ⅱ 35. 足関節の軟部組織損傷Ⅰ 36. 足関節の軟部組織損傷Ⅱ 37. 足部の疾患Ⅰ 38. 足部の疾患Ⅱ 39. 後期試験 40. 試験解説 </td> </tr> </table>			<ol style="list-style-type: none"> 1. 肘関節後方脱臼 2. 肘関節前方脱臼～肘内障 3. 手関節脱臼・手指の脱臼Ⅰ 4. 手関節脱臼・手指の脱臼Ⅱ 5. 手関節脱臼・手指の脱臼Ⅲ 6. 上肢脱臼のまとめ 7. 肩の軟部組織損傷Ⅰ 8. 肩の軟部組織損傷Ⅱ 9. 肩の軟部組織損傷Ⅲ 10. 肩の軟部組織損傷Ⅳ 11. 上腕～肘の軟部組織損傷Ⅰ 12. 肘～前腕の軟部組織損傷Ⅰ 13. 肘～前腕の軟部組織損傷Ⅱ 14. 末梢神経損傷Ⅰ 15. 末梢神経損傷Ⅱ 16. 末梢神経損傷Ⅲ 17. 手関節～手指部の障害Ⅰ 18. 手関節～手指部の障害Ⅱ 19. 予備日 20. 前期試験 	<ol style="list-style-type: none"> 21. 試験解説/股関節脱臼Ⅰ 22. 股関節脱臼Ⅱ 23. 膝関節脱臼 24. 膝蓋骨脱臼 25. 足部～足趾部の脱臼 26. 下肢脱臼のまとめ 27. 股関節の軟部組織損傷 28. 股関節の疾患 29. 大腿部の損傷 30. 膝関節の軟部組織損傷Ⅰ 31. 膝関節の軟部組織損傷Ⅱ 32. 膝関節の軟部組織損傷Ⅲ 33. 下腿部の軟部組織損傷Ⅰ 34. 下腿部の軟部組織損傷Ⅱ 35. 足関節の軟部組織損傷Ⅰ 36. 足関節の軟部組織損傷Ⅱ 37. 足部の疾患Ⅰ 38. 足部の疾患Ⅱ 39. 後期試験 40. 試験解説
<ol style="list-style-type: none"> 1. 肘関節後方脱臼 2. 肘関節前方脱臼～肘内障 3. 手関節脱臼・手指の脱臼Ⅰ 4. 手関節脱臼・手指の脱臼Ⅱ 5. 手関節脱臼・手指の脱臼Ⅲ 6. 上肢脱臼のまとめ 7. 肩の軟部組織損傷Ⅰ 8. 肩の軟部組織損傷Ⅱ 9. 肩の軟部組織損傷Ⅲ 10. 肩の軟部組織損傷Ⅳ 11. 上腕～肘の軟部組織損傷Ⅰ 12. 肘～前腕の軟部組織損傷Ⅰ 13. 肘～前腕の軟部組織損傷Ⅱ 14. 末梢神経損傷Ⅰ 15. 末梢神経損傷Ⅱ 16. 末梢神経損傷Ⅲ 17. 手関節～手指部の障害Ⅰ 18. 手関節～手指部の障害Ⅱ 19. 予備日 20. 前期試験 	<ol style="list-style-type: none"> 21. 試験解説/股関節脱臼Ⅰ 22. 股関節脱臼Ⅱ 23. 膝関節脱臼 24. 膝蓋骨脱臼 25. 足部～足趾部の脱臼 26. 下肢脱臼のまとめ 27. 股関節の軟部組織損傷 28. 股関節の疾患 29. 大腿部の損傷 30. 膝関節の軟部組織損傷Ⅰ 31. 膝関節の軟部組織損傷Ⅱ 32. 膝関節の軟部組織損傷Ⅲ 33. 下腿部の軟部組織損傷Ⅰ 34. 下腿部の軟部組織損傷Ⅱ 35. 足関節の軟部組織損傷Ⅰ 36. 足関節の軟部組織損傷Ⅱ 37. 足部の疾患Ⅰ 38. 足部の疾患Ⅱ 39. 後期試験 40. 試験解説 				
準備学習	身体全体の構造(特に骨や筋)について理解しておき、各関節の構造や筋の損傷しやすい部位(筋腱移行部)などを調べておく。				
教科書・教材等	柔道整復学(理論・実技)、プリント				
授業の形式 教育機器の活用	講義形式、確認問題の活用				
成績評価の方法	定期試験				
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>肩・肘の脱臼は特に発生頻度が高く、臨床現場でも遭遇機会があるため、勉強し覚えて欲しい。 また、実際の臨床現場では軟部組織損傷を伴う外傷が多いので、軟部組織損傷については広い知識を身に付けて欲しい。</p>				

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	高齢者・競技者の外傷予防	担当教官名	田畑 興介
対象学生	第2学年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	20回
授業のキーワード	前半は座学で高齢者の特徴や病理を学ぶ。以後、実技室にて介護実習を行う。アスリート系についても前半は座学を行い、後半は実技室にてトレーニング実習を行う。		
授業の概要 及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の特徴を学び、実技等を通じトランスファーや介助方法を習得する。 ・アスリートの身体特性やトレーニングを学び、実技を通じてトレーニングの方法や負荷量を学ぶ。 		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢医学(教科書・プリント) 2. 高齢医学(教科書・プリント) 3. 高齢医学(教科書・プリント) 4. 高齢医学(教科書・プリント) 5. 高齢医学(教科書・プリント) 6. 車イス駆動・車イス介助 7. 車イス駆動・車イス介助 8. 杖による階段昇降体験 9. 杖による階段昇降体験 10. 総合小テスト 11. アスリートの身体特性(教科書・プリント) 12. アスリートの身体特性(教科書・プリント) 13. アスリートの身体特性(教科書・プリント) 14. アスリートの身体特性(教科書・プリント) 15. トレーニング処方(教科書・プリント) 16. トレーニング処方(教科書・プリント) 17. トレーニング処方(教科書・プリント) 18. トレーニング体験・処方体験 19. トレーニング体験・処方体験 20. 後期試験 		
準備学習	解剖学的な知識や柔道整復理論の復習をしておくように		
教科書・教材等	高齢者・競技者の外傷予防(教科書)		
授業の形式 教育機器の活用	PPT・車いす・各種杖・バランスボール等使用		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	体験型の講義です。積極的に参加しましょう!		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分 (基専)	専門分野
授業科目名	柔道整復実技 I	担当教官名	露久保先生
対象学生	第2学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	45回
授業のキーワード	臨床応用実技 認定実技審査対応実技		
授業の概要 及び到達目標	<p>各疾患の理論を説明し、理解が得られたところで実技指導を行う。 その後、実技のグループ・ペアに分かれて臨床症状及び整復前の確認、 整復法 整復後の確認、固定法を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床に応用できる技術を取得する。 2. 認定実技審査の課題を中心に行う。 3. ロールプレイであっても、実際の患者と想定しながら接し、気を配り真摯な態度で行う。 		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 鎖骨骨折 ㉑ 坐位整復法 2. ㉑の復習 ㉒ 鎖骨整復台整復法 3. 固定法(8字帯+デゾー) 4. 固定法復習+リング帯 5. 固定法復習+クラビクルバンド 6. 上腕骨外科頸骨折整復法 7. 整復法復習① 8. 整復法復習② 9. 肩関節脱臼 ㉑コッヘル整復法 10. ㉒ ヒポクラテス整復法 11. 整復法復習 12. 固定法 13. 固定法復習① 14. 固定法復習② 15. ミッテルドルフ固定法 16. 総復習 17. 総復習 18. 総復習 19. 総復習 20. 試験日 21. 肘関節脱臼整復法 22. 整復法復習 23. 固定法 	<ol style="list-style-type: none"> 24. 固定法復習 25. 総復習 26. 肩鎖関節脱臼整復法 27. 整復法復習 28. 固定法 29. 固定法復習 30. 総復習 31. コーレス骨折整復法 32. ㉑牽引直圧法 ㉒屈曲整復法 33. 整復法復習① 34. 整復法復習② 35. 固定法 36. 固定法復習 37. 固定法復習 38. 総復習 39. 総復習 40. 試験日 41. 試験解説① 42. 試験解説② 43. 特別講義① 44. 特別講義② 45. 特別講義③ 	
準備学習	解剖学で学ぶ骨の名称・筋の起始停止・筋の走行などの内容は理解しておく。 1年生で習った骨折学を中心に復習しておく。		
教科書・教材等	「柔道整復学・実技編 改訂2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂		
授業の形式 教育機器の活用	プリント資料配布・実技		
成績評価の方法	実技試験・出席状況		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回出席が原則(1欠席につき5点減点・遅刻3点減点などあり) 1回欠席するとそれだけ技術の習得が遅れることを認識する。 ・白衣(上下)着用、白衣の下はTシャツ 爪・装飾品などの容姿に留意 		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	柔道整復実技Ⅱ	担当教官名	田畑 興介
対象学生	第2学年	履修学期	1・2・3・4期(通年)
必修・選択の別	必修	授業回数	45回
授業のキーワード	医学的知識を手技を通して表現する		
授業の概要 及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○認定実技審査の出題項目のうち、軟部組織損傷の診察及び検査の履修 ○それ以外に临床上必要な診察および検査、治療法の履修 ○認定実技審査に耐えうる技術の修得 ○最新の医学的知見を身につける ○医療の中の柔道整復師の位置づけを知りコミュニケーション能力を高める ●各学期末試験の合格 ●講義で得た知見を手技として表現できる 		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 頸部周辺の軟損の診察および検査 2. 頸部周辺の軟損の診察および検査 3. 頸部周辺の軟損の診察および検査 4. 頸部周辺の軟損の診察および検査 5. 頸部周辺の軟損の診察および検査 6. 腰部周辺の軟損の診察および検査 7. 腰部周辺の軟損の診察および検査 8. 肩腱板損傷の診察および検査 9. 肩腱板損傷の診察および検査 10. 肩腱板損傷の診察および検査 11. 上腕二頭筋腱損傷の診察および検査 12. 上腕二頭筋腱損傷の診察および検査 13. 各項目の演習および評価 14. 各項目の演習および評価 15. 解説講義 16. ハムストリングス損傷の診察および検査 17. ハムストリングス損傷の診察および検査 18. 大腿四頭筋損傷の診察および検査 19. 大腿四頭筋損傷の診察および検査 20. 試験日 21. 下腿三頭筋損傷の診察および検査 22. 足関節損傷の診察および検査 23. 下腿骨幹部骨折の固定 	<ol style="list-style-type: none"> 24. 総合復習 25. 総合復習 26. 各項目の演習および評価 27. 各項目の演習および評価 28. 解説講義 29. 膝関節軟部組織損傷の診察および検査 30. 膝関節軟部組織損傷の診察および検査 31. 膝関節軟部組織損傷の診察および検査 32. 膝関節軟部組織損傷の診察および検査 33. アキレス腱断裂の固定 34. アキレス腱断裂の固定 35. アキレス腱断裂の固定 36. 総合復習 37. 総合復習 38. 総合復習 39. 実技試験前解説 40. 試験日 41. 試験解説① 42. 試験解説② 43. 特別講義① 44. 特別講義② 45. 特別講義③ 	
準備学習	解剖学 運動学 柔道整復理論		
教科書・教材等	柔道整復理論実技編・認定実技審査・その他		
授業の形式 教育機器の活用	プリント・PC(PPT)を用いた解説及び講師による模範実技		
成績評価の方法	各学期とも、平常点20%、実技試験40%、実技ペーパー試験40%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	認定実技審査の通過のみを目標とするのではなく、卒後の臨床に必要な学習を含むため、学生の「聴く力」が大いに必要と考える。また聴いてもらえるように指導します。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	臨床実習	担当教官名	黄海 匡士
対象学生	第2学年	履修学期	後期(前半)
必修・選択の別	必修	授業回数	14回
授業のキーワード	臨床実習、接骨院、施術録		
授業の概要 及び到達目標	<p>実習を通じて柔道整復師のあるべき姿を理解し、コンプライアンス・医療面接・インフォームドコンセント・手技療法・施術録の記入など、今後臨床家として必要になると考える『知識、技術の基本および実践』をまなぶ。</p> <p>超音波観察装置の使用方法を理解できる。</p> <p>実習後、自らの将来像を考えることができる。</p>		
講義計画・内容	1W(診察) 2W(診察) 3W(診察) 4W(診察) 5W(鑑別技術) 6W(診察) 7W(診察) 8W(診察) 9W(試験) 10W(症例報告) 特別講義(態度) 特別講義(態度) 特別講義(症例報告) 特別講義	医療面接から施術までの流れ(問診から触診までの手順など) 身体触察・上肢(触診など) 各種徒手検査・各種反射検査など(上肢) MMTの計測・評価(上肢) 超音波観察装置についての理解と読影 身体触察・下肢(触診など) 各種徒手検査・各種反射検査など(下肢) MMTの計測・評価(下肢) 実習前施術試験(これまでの内容の理解度テストなど) PowerPoint作成について(実習施設について)※10週目に実施 オリエンテーション(態度・リスクマネジメントなど) 実習前オリエンテーション(書類配布・諸注意など) 発表準備 施術所見学 報告会	
準備学習	柔道整復学、関係法規など柔道整復業務に関わる全てを理解していることが望ましい		
教科書・教材等	角度計、触診技術(上肢・下肢)、プリント、超音波観察装置、包帯、テーピングなど		
授業の形式 教育機器の活用	授業形式:実技、教育機器:プロジェクター使用あり		
成績評価の方法			
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>学内の臨床実習にて授業で習ったことの再確認と、臨床現場で必要な基礎を学びます。身嗜みや礼儀作法など医療人として必要なことを学習し、外部での臨床実習につなげます。</p> <p>外部実習に出た際に様々な経験ができると思いますが、それまでに必要な知識と技術を身に付けられるようにしていきたい。</p>		

R6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	解剖・生理学	担 当 教 官 名	糟谷 圭吾
対象学生	第3学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	40回
授業のキーワード	神経系、内分泌系による調節機構(ホメオスタシス)、生体の正常な構造		
授業の概要 及び到達目標	<p>人体の生命現象と正常機能およびその体系の理解特に 等の生命維持に不可欠な機能と構造についての概念を習得し、本授業終了時には各々の解剖学および生理学的事項について説明ができるようになる。 ※実務者経験 1994～1996 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。 1996～歯科医師として臨床業務に従事。 1998～2000 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟(有病者歯科)における 全身管理業務に従事。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1、2年生既習範囲の総括 実力試験 2. 消化吸収と栄養と代謝と内分泌系の補足 3. 体温 代謝のまとめと生理的変動 4. 体温 熱の産生とホルモン 5. 体温 熱放散の機序 6. 体温 うつ熱と発熱 体温調節機構 7. 鍼灸、あん摩師の国家試験演習 8. 新傾向分野の補足(生理学第4版記述分) 9. 1～8の範囲のまとめ 10. 中間試験と解説講義 11. 内分泌系総論 12. 内分泌系各論 視床下部、下垂体 13. 内分泌系各論 甲状腺のホルモン 14. 内分泌系各論 副腎皮質、副腎髄質 15. 内分泌系各論 睪臓 精巣 卵巣 16. 生殖器系の生理学 総論 17. 男性生殖器系の構成と生理学 18. 女性生殖器系の構成と生理学 19. 11～18範囲のまとめ 20. 前期定期試験と解説講義 	<ol style="list-style-type: none"> 21. 血液の生理学 脈管系の総論復習 22. 心臓の生理学 動脈系の復習 23. 静脈、リンパ管系、胎児循環の復習 24. 呼吸の生理学 呼吸器系の解剖学復習 25. 消化器系の生理学、消化器系の構造復習 26. 消化器系の構造復習 その2 27. 吸収、栄養と代謝の復習 28. 体温の生理学の復習 29. 総まとめ 30. 定期試験と解説講義 <特別講義> 31. 泌尿器系の生理学、構造の復習 腎臓 32. 泌尿器系の構造と総括 33. 内分泌器系の生理学 復習 ① 34. 内分泌器系の生理学 復習 ② 35. 生殖器系の生理学 解剖学的事項の復習 36. 骨の生理学 37. 感覚器系総合演習 38. 国家試験対策 主に鍼灸師国家試験総括 39. 国家試験対策 主にあん摩師国家試験総括 40. 国家試験対策 予想問題演習 	
準備学習	講義予定範囲の教科書本文を熟読し理解できない部分をまとめておくこと		
教科書・教材等	「解剖学」改訂第2版 「生理学」第3版 全国柔道整復学校協会監修 南江堂		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>正常な人体の構造、機能、機序を学ぶ解剖学、生理学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習して欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい</p>		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	臨床分野
授業科目名	整形外科学	担 当 教 官 名	浅見 則夫
対 象 学 生	第3学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	40コマ
授業のキーワード	運動器の外傷、疾患		
授業の概要 及び到達目標	整形外科学は運動器(骨、関節、筋肉、神経)の外傷や疾患を扱う臨床学の1つです。教科書を中心に授業を進めていきますが、部位が多く、内容は多岐にわたります。そのため個々の知識が孤立化しない様、関連することは適宜、挿入し理解記憶しやすい様に努めます。柔道整復における実際の臨床の場でも役立つ知識を身に付けてください。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 運動器の基礎知識 2 整形外科診察法 3 整形外科検査法 4 整形外科的治療法 5 骨・関節損傷総論1 6 骨・関節損傷総論2 7 スポーツ整形外科総論・リハビリテーション総論 8 感染性疾患 9 骨および軟部腫瘍 10 非感染性軟部・骨関節疾患1 11 非感染性軟部・骨関節疾患2 12 全身性の骨・軟部疾患 13 骨端症・四肢循環障害 14 神経麻痺と絞扼性神経障害・腕神経叢損傷・分娩麻痺 15 試験 16 全身性神経・筋疾患 17 脊髄腫瘍・脊髄損傷 18 頸部疾患 19 胸部疾患 	<ol style="list-style-type: none"> 20 腰部疾患 21 試験解説 22 肩・肩甲帯疾患 23 上腕・肘関節疾患 24 前腕・手関節疾患 25 手・手指疾患 26 骨盤・股関節疾患 27 大腿・膝関節疾患 28 下腿・足関節疾患 29 足・足趾疾患 30 試験 31 試験解説 32 国試対策 33 国試対策 34 国試対策 35 国試対策 36 国試対策 37 国試対策 38 国試対策 39 国試対策 40 国試対策 	
準備学習	部位ごとに簡単に復習はしますが、解剖学で学ぶ運動器の内容は理解しておく。		
教科書・教材等	整形外科学【改訂第4版】 南江堂		
授業の形式 教育機器の活用	講義:教科書中心ですが、覚えて欲しいことを問題形式にしたプリントを適宜配布します。		
成績評価の方法	定期試験(前期1回・後期1回)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	臨床の現場では整形外科の知識が必要になる場面も多々あると思います。理解記憶必要なことも多いと思いますが、地道に取り組んでください。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	衛生学・公衆衛生学	担当教官名	杉山 文枝
対象学生	第3学年	履修学期	前期・後前期
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	章ごとにポイントを絞り、国家試験に対応できる知識をつける		
授業の概要 及び到達目標	<p>授業の初めに、前回の授業のポイントの復習をする。それにより知識の定着させる。知識の定着することにより、衛生学・公衆衛生学の統計について理解と説明ができる。</p> <p>実務者経験：2002年より国家試験受験可能な医療系専門学校に勤めています</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人口統計および保健衛生統計 2. 生活の役割 健康の測定・人口ピラミッド 人口静態統計 人口動態統計 3. 疾病の自然史 危険因子 疾病予防の段階 4. 感染症とは、感染症成立の条件、その他の感染症 5. ウィルス感染症、細菌感染症 6. 感染症の予防対策 7. 消毒の意義 種類と方法、院内感染対策 8. 環境問題：温暖化、砂漠化、酸性雨など 9. 公害：考え方、歴史、わが国の四大公害訴訟 10. 1～9の振り返り授業 11. 空気の衛生：成常成分、異常成分、 内分泌かく乱物質 12. 水の衛生と水質汚濁：上水、下水、健康被害 13. 住居：健康な住居の原則 14. 食品衛生活動：食中毒、 安全対策、栄養対策 15. 母子保健の指標、母子保健行政、対策 16. 学校保健管理・担当者など 保健教育：学校・指導 17. 産業保健の目的：職業病とその対策 18. 健康診断、健康増進、リハビリテーション 19. 生活習慣病：がん、脳血管疾患、心疾患 20. 前期試験と解説講義 	<ol style="list-style-type: none"> 21. 高齢者福祉、認知症支援、介護保健 22. 精神の病気：統合失調症、 心身症、不安障害 23. 精神の病気：物質関連障害、 認知症、気分障害 24. プライマリヘルスケア・ヘルス プロモーション、WHOの活動 25. 衛生行政機構、国・都道府県・保健所・市町村 26. 医療保険：制度の概要、 保険給付、医療費の分析 27. ヒヤリハット、インシデント、 アクシデント、インフォームドコンセント 28. 調査対象、記述疫学、分析疫学 (コホート研究 症例対照研究) 29. 総復習 30. 後期試験と解説講義 	
準備学習	身近なニュース・天気予報などを普段から気にしておくようにしましょう。		
教科書・教材等	南江堂 衛生学・公衆衛生学		
授業の形式 教育機器の活用	教科書主体		
成績評価の方法	期末試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)			

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	関係法規
授業科目名	関係法規	担当教官名	高橋 芳貴
対象学生	3年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	20回
授業のキーワード	柔道整復師法、医療法、医師法、その他医療従事者の資格、法		
授業の概要 及び到達目標	柔道整復師として必要な法規を理解する。その他の医療従事者の資格、医療法、社会保険制度、個人情報保護法等についても学習し、臨床の現場で必要な知識を得る。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国家試験・法の体系 2. 患者の権利 3. 医療過誤とリスクマネジメント 4. 柔道整復師に関する法規・柔道整復師法の目的 5. 免許について 6. 柔道整復師国家試験 7. 業務 8. 施術所・雑則 9. 罰則・指定登録機関及び指定試験機関 10. 予備日 11. 柔道整復師法施行令・規則 12. 医療従事者の資格法・医療法 13. 社会福祉関係法規 14. 社会保険関係法規 15. その他の関係法規 16. 社会保障制度 17. 国家試験過去問 18. 試験前総復習 19. 試験前総復習 20. 定期試験と解説講義 		
準備学習	事前に教科書を読む		
教科書・教材等	関係法規2020年版		
授業の形式 教育機器の活用	講義・練習問題		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)			

令和 6 年度年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	柔道Ⅱ	担 当 教 官 名	湊谷 知幹/打味裕子
対 象 学 生	第3学年	履 修 学 期	前期・後前期
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード 礼法、前回受身、形、乱取			
授業の概要 及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・認定実技審査の審査内容を理解する。 ・認定実技審査の合格基準でもある初段相当の実力を身につける。 ・認定実技審査に基づいた身嗜み・受身・形・立ち技を身につける ・認定実技審査で決まっている試験時間内に審査が終わるようスムーズな動きが出来るようになる。 ・技の間合いや理合いを理解する。 ・格闘技である事・相手が怪我をする可能性がある事を行っているという自覚を持ち、相手に対する感謝の気持ちを忘れない。 ・認定実技審査に全員合格する。 ・上記の理解をしたうえで、国家試験必修問題でも点数を取れるようにする。 ・認定実技審査合格 		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2年次の復習(礼法・前回受身) 2. 手技の足運び 3. 手技で投げる練習 4. 腰技の足運び 5. 腰技で投げる練習 6. 足技の足運び 7. 足技で投げる練習 8. 前回受身での時間短縮について、手技反復練習、立技練習 9. 前回受身のタイム計測、腰技反復練習、立技練習 10. 前回受身のタイム計測、足技反復練習、立技練習 11. 前回受身のタイム計測、手技・腰技・足技の総復習、立練習 12. 前回受身のタイム計測、手技・腰技・足技の総復習、立技練習 13. 前回受身のタイム計測、手技・腰技・足技の総復習、立技練習 14. 受身、形、立技、中間試験 15. 受身、形、立技、中間試験 16. 約束乱取について、約束乱取打ち合わせ、約束乱取 17. 実技試験について、実技試験練習 18. 実技試験練習 19. 実技試験練習 20. 資格取得試験 	<ol style="list-style-type: none"> 21. 試験解説、評価を受けての振り返り練習 22. 礼法・前回受身・形・約束乱取の補足、実技練習 23. 礼法・前回受身・形・約束乱取の補足、実技練習 24. 認定実技審査について、実技練習 25. 認定実技審査解説、評価を受けての振り返り練習 26. 国家試験(座学問題)を含めて実技練習(試験) 27. 国家試験対策(柔道の歴史、理念)、実技練習 28. 国家試験対策(審判規定、礼法)、実技練習 29. 国家試験対策(受身)、実技練習、実技試験について 30. 実技試験、国家試験 	
準備学習	授業で行った内容を必ず次の授業までに柔道場に来て復習する。		
教科書・教材等	実技・柔道の教科書		
授業の形式 教育機器の活用	実技		
成績評価の方法	実技試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	認定実技審査の基準でもある初段相当の実力をつける為、投の形のうち手技・腰技・足技を習得し立技の練習も行います。認定実技審査の合格基準でもある為、年齢・性別に関係なく最低限の実力をつけてもらう授業内容になっています。また、国家試験の必修問題にも出題される事となるため、座学の授業も取り入れて行う。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	外傷の保存療法	担当教官名	上岡 伸光
対象学生	第3学年	履修学期	後期(前半)
必修・選択の別	必修	授業回数	10回
授業のキーワード	臨床応用実技		
授業の概要 及び到達目標	各疾患の理論を説明し、理解が得られたところで実技指導を行う。 その後、実技のグループ・ペアに分かれて臨床症状及び固定法を学ぶ。 臨床に応用できる技術を取得する。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前腕ギプス固定 2. 鎖骨骨折固定 <ol style="list-style-type: none"> ①セイヤー絆創膏固定 ②リング固定・副子固定 3. 下駄骨折固定(厚紙副子固定) 4. 外果骨折固定(厚紙副子固定) 5. 外果骨折固定(厚紙副子+クラーメル固定) 6. MCL固定(内・外側厚紙副子固定) 7. マレットフィンガー固定(プライトン固定)P285 a.b.c 8. 膝蓋骨骨折(リング固定+副子固定) 9. 復習・演習 10. 試験またはレポート作成 		
準備学習	解剖学で学ぶ骨の名称・筋の起始停止・筋の走行などの内容は理解しておく。 骨折額を中心に復習しておく。		
教科書・教材等	「柔道整復学・実技編 改訂2版」全国柔道整復学校協会監修 南江堂		
授業の形式 教育機器の活用	プリント資料配布・実技		
成績評価の方法	実技試験・出席状況・授業態度などで評価		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回出席が原則(1欠席につき5点減点・遅刻3点減点等あり) 1回欠席するとそれだけ技術の習得が起これることを認識する。 ・白衣(上下)着用、白衣の下はTシャツ 爪、装飾品などの容姿に留意 		

令和6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅱ	担当教官名	上岡 伸光
対象学生	第3学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	柔道整復学(総論・各論・実技)を網羅。		
授業の概要及び到達目標	国家試験の必修対策として理論編・実技編の教科書を使用する。 国家試験正解率8割を目指す。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 柔道整復学の導入(実力テスト実施) 2. 基礎学力テスト実施 3. 鎖骨骨折① 4. 鎖骨骨折②・肋骨骨折 5. 上腕骨外科頸骨折 6. 上腕骨骨幹部・中手骨骨折 7. コーレス骨折・下腿骨幹部骨折 8. 肩鎖関節脱臼 9. 肩関節脱臼 10. 肘関節脱臼・PIP関節脱臼 11. 肘関節脱臼・肘内障 12. 上肢(軟部組織損傷)① 13. 上肢(軟部組織損傷)② 14. 上肢(軟部組織損傷)③ 15. 大腿(軟部組織損傷) 16. 下肢(軟部組織損傷)① 17. 下肢(軟部組織損傷)② 18. 下肢(軟部組織損傷)③ 19. 総まとめ(復習) 20. 定期試験 	<ol style="list-style-type: none"> 21. 筋肉などによる骨片転位など(運動学)① 22. 筋肉などによる骨片転位など(運動学)② 23. 柔道整復学各論(上肢骨折) 24. 柔道整復学各論(上肢脱臼) 25. 柔道整復学各論(上肢軟部組織損傷) 26. 柔道整復学各論(下肢骨折) 27. 柔道整復学各論(下肢脱臼) 28. 柔道整復学各論(下肢軟部組織損傷) 29. 総まとめ 30. 後期試験 	
準備学習	国家試験過去問・柔道整復理論編・実技編の教科書および確認		
教科書・教材等	柔道整復学理論編・実技編 教科書		
授業の形式 教育機器の活用	講義、PowerPoint、プロジェクター(視覚的機器)		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	柔道整復学の導入から各論までの範囲を勉強します。 実技編と理論編の教科書を使用しながら、必修問題対策を行います。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅲ	担当教官名	田畑 興介
対象学生	第3学年	履修学期	前期・後前期
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	社会が求める柔道整復学の習慣		
授業の概要 及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○これまで履修した柔道整復理論の総復習 ○国家試験問題の傾向と対策を知る ○臨床的思考を構築する ●国家試験の合格 		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総論問題演習および回解説 2. 総論問題演習および回解説 3. 総論実力テスト 4. 総論実力テストの解説 5. 総論問題演習および回解説 6. 総論問題演習および回解説 7. 下肢実力テスト 8. 下肢実力テストの解説 9. 骨盤骨骨折～大腿部の脱臼・骨折の問題演習 および解説 10. 1セメスター試験 11. 骨盤骨骨折～大腿部の脱臼・骨折の問題 演習および解説 12. 大腿部～下肢の脱臼・骨折の問題演習 および解説 13. 大腿部～下肢脱臼・骨折の問題演習 および解説 14. 大腿部～下肢の脱臼・骨折の問題 演習および解説 16. 下腿～足部の脱臼・骨折の問題演習 および解説 17. 下腿～足部の脱臼・骨折の問題演習 および解説 18. 下腿～足部の脱臼・骨折の問題演習 および解説 	<ol style="list-style-type: none"> 19. 骨盤骨骨折～大腿部の軟部組織損傷の問題 演習および解説 20. 定期試験と解説講義 21. 大腿部～下腿の軟部組織損傷の問題演習 および解説 22. 大腿部～下腿の軟部組織損傷の問題演習 および解説 23. 下腿～足部の軟部組織損傷の問題演習 および解説 24. 下腿～足部の軟部組織損傷の問題演習 および解説 25. 下腿～足部の軟部組織損傷の問題演習 および解説 26. 体幹部の損傷の問題演習および解説 27. 体幹部の損傷の問題演習および解説 28. まとめ① 29. まとめ② 30. 定期試験と解説講義 	
準備学習	柔道整復理論 解剖学 生理学 運動学		
教科書・教材等	柔道整復理論教科書		
授業の形式 教育機器の活用	問題演習および解説		
成績評価の方法	各学期末試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)			

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅳ	担 当 教 官 名	今村浩久
対 象 学 生	第3学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	国家試験対策 ?を!に。重要ポイントはわかりやすく、「なるほど、そういうことか」にしていく		
授業の概要 及び到達目標	<p>国家試験対策として臨床科目を中心に学習。 年々難易度が上昇傾向にある臨床科目を他の科目とリンクさせて行っていく。 他学科の出題傾向にも注視し、基礎医学の復習と一緒に国家試験レベルを目指す。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国対オリエンテーション 2. 診察各論1(問診) 3. 診察各論2(視診) 4. 診察各論3(聴診) 5. 診察各論4(打診) 6. 柔理各論1(顔面～体幹、呼吸器系含む) 7. 柔理各論2(顔面～体幹、呼吸器系含む) 8. 柔理各論3(顔面～体幹、循環器系含む) 9. 柔理各論4(顔面～体幹、循環器系含む) 10. 1セメ試験 11. 柔理各論5(顔面～体幹、消化器系含む) 12. 柔理各論6(顔面～体幹、消化器系含む) 13. 柔理各論1(各組織損傷、代謝系含む) 14. 柔理総論2(各組織損傷、内分泌系含む) 15. 柔理総論3(各組織損傷、血液系含む) 16. 柔理総論4(各組織損傷、神経系含む) 17. 柔理総論5(各組織損傷、感染症系含む) 18. 柔理総論6(各組織損傷、膠原病含む) 19. 柔理総論7(各組織損傷、腎系含む) 20. 2セメ試験 	<ol style="list-style-type: none"> 21. 柔理各論7(上肢下肢、損傷含む) 22. 柔理各論8(上肢下肢、損傷含む) 23. 柔理各論9(上肢下肢、炎症含む) 24. 柔理各論10(上肢下肢、腫瘍含む) 25. 柔理各論11(上肢下肢、ショック含む) 26. 柔理各論12(上肢下肢、輸血輸液含む) 27. 柔理各論13(上肢下肢、消毒含む) 28. 柔理各論14(上肢下肢、手術含む) 29. 柔理各論15(上肢下肢、麻酔含む) 30. 3セメ試験 	
準備学習	<p>国家試験過去問題をまずは解剖、生理、柔理からスタート。 夏休みまでには基礎医学の復習を終わらせましょう。</p>		
教科書・教材等	柔道整復学(理論編)、解剖学、生理学、病理学、衛生学、外科学、一般臨床医学		
授業の形式 教育機器の活用	板書、問題解説 資料、PC使用は年数回あり		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>この授業は国家試験対策のひとつとして、臨床系科目の対策です。 基礎医学をしっかり学び応用できれば解決できることが多いです。 まずは焦らず一緒に勉強計画を立てていきましょう。</p>		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	臨床柔道整復学V	担当教官名	原田 麻史
対象学生	第3学年	履修学期	後前期
必修・選択の別	必修	授業回数	10回
授業のキーワード	制度の理解		
授業の概要 及び到達目標	柔道整復師として必要な社会保険制度や職業倫理について理解できる。また国家試験合格に向けて総復習をし理解する。		
講義計画・内容	<ul style="list-style-type: none"> ①運動器損傷の診察(医療面接・全身の観察・触診・各徒手検査等) ②疾病の一般(分類・経過・予後・転帰) ③細胞障害(退行性病変・進行性病変・代謝障害) ④炎症(一般・分類) ⑤感染症(感染源・観戦・発病・免疫) ⑥感染症 ⑦消毒(消毒法一般・種類・方法) ⑧患者の権利・医療過誤トリスクマネジメント・関係法規 ⑨関係法規・復習 ⑩定期試験 		
準備学習	授業前後の復習をしてください。		
教科書・教材等	柔道整復理論・柔道整復実技・病理学・衛生学・関係法規・資料プリント		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)			

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	柔道整復術適応の臨床的判定	担当教官名	田畑 興介
対象学生	3年生	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	20回
授業のキーワード	柔道整復師の法制度的業務範囲の整理と医学的適応の理解		
授業の概要 及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復師の法制度的業務範囲の整理 柔道整復師法と受領委任取扱規定(健康保険施術)の係る法制度的な適応を理解し、医療における柔道整復師の位置づけを学び、臨床へ活かす。 ・医学的適応 柔道整復術所での施術が妥当な外傷であるか否かの判断を身に付け、内科的疾患等を鑑別し、患者利益を損なうことのない知識を習得する。 ・パワーポイントを用い豊富な画像診断用の資料を提示する。診断権のない柔道整復師ではあるが、国民医療の一翼を担う医療従事者として、最低限の画像読影や悪性腫瘍等のピットフォールを含め解説する。 		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 柔道整復施術所の非適応疾患を学ぶ。(1) 2. 柔道整復施術所の非適応疾患を学ぶ。(2) 3. 柔道整復施術所の非適応疾患を学ぶ。(3) 4. 運動器傷害と鑑別すべき内科的疾患を学ぶ。(1) 5. 運動器傷害と鑑別すべき内科的疾患を学ぶ。(2) 6. 悪性腫瘍等に由来する疾患別特徴を学ぶ(1) 7. 悪性腫瘍等に由来する疾患別特徴を学ぶ(2) 8. 不可逆性変化(急性馬尾神経症候群等)の理解(1) 9. 不可逆性変化(急性馬尾神経症候群等)の理解(2) 10. 予備日 11. 超音波画像観察装置について 12. 超音波画像観察装置の理解 13. 超音波画像観察装置の法的位置づけについて 14. 超音波画像観察装置の読影方法について 15. 超音波画像観察装置の読影方法について 16. 単純X線について 17. X線CTについて 18. MRIについて 18. 超音波画像観察装置について 19. シンチグラフィーについて 20. 定期試験と解説講義 		
準備学習	中等度		
教科書・教材等	施術の適応と医用画像の理解(教科書)		
授業の形式 教育機器の活用	パワーポイントで資料を投影し学生にはプリントに要点を記入して頂く。		
成績評価の方法	定期試験(小テストの評価を含む)		
担当教官から (履修に当たっての留意点)			

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	実践臨床柔道整復学	担当教官名	専科教員および医師
対象学生	第3学年	履修学期	後後期
必修・選択の別	必修	授業回数	60回
授業のキーワード	解剖・生理・運動・衛生・公衆衛生・病理・法規・外科・リハビリテーション・一般臨床・整形外科・柔道整復		
授業の概要 及び到達目標	患者が来院されて時の様々なシチュエーションの中で、患者とのコミュニケーションに必要な各科目の知識や国家試験を受験するにあたって必要な知識が習得できているかを確認することを目的とする。 到達目標は国家試験に合格できるレベルとする。		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診察各論(視診、打診、聴診、触診、生命徴候、感覚検査、反射検査、臨床症状) 2. 上肢損傷、下肢損傷 3. 体液・神経の生理について 4. 整形外科 診察法・検査法 5. 頭部・体幹の軟部組織損傷 6. 頭部・体幹の骨折と脱臼 7. 呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、代謝疾患、内分泌疾患 8. 頸肩腕症候群・腰痛 9. 筋・循環器系・呼吸器系の生理について 10. 整形外科 治療法 11. 上肢の軟部組織損傷① 12. 上肢の骨折と脱臼① 13. 血液・造血器疾患、腎・尿路疾患、神経疾患、感染症、リウマチ、膠原病、その他 14. 肋骨骨折、アキレス腱断裂 15. 消化と吸収・栄養と代謝の生理について 16. 整形外科 総論 17. 上肢の軟部組織損傷② 18. 上肢の骨折と脱臼② 19. 細胞傷害、循環障害、進行性病変 20. 介護保険法① 21. 体温調節・内分泌機能と生殖の生理について 22. スポーツ整形外科 総論 23. 上肢の軟部組織損傷③ 24. 上肢の骨折と脱臼③ 25. 炎症、アレルギー、腫瘍、先天性異常、病因について 26. 介護保険法② 27. 腎機能と構造の生理について 28. 整形外科 疾患別各論① 29. 上肢の軟部組織損傷④ 30. 上肢の骨折と脱臼④ 	<ol style="list-style-type: none"> 31. 外科学 総論 32. 障害者スポーツ① 33. 疾病予防と健康管理、感染症の予防について 34. 整形外科 疾患別各論② 35. 下肢の軟部組織損傷① 36. 下肢の骨折と脱臼① 37. 外科学 各論 38. 障害者スポーツ② 39. 消毒、環境衛生について 40. 整形外科 身体別各論① 41. 下肢の軟部組織損傷② 42. 下肢の骨折と脱臼② 43. 衛生行政と保健医療の制度について(関係する法律について) 44. リハビリテーション 問題演習 45. 母子保健・学校保健・産業保健について 46. 整形外科 身体別各論② 47. 下肢の軟部組織損傷③ 48. 下肢の骨折と脱臼③ 49. 実践柔道整復学まとめ① 50. 実践柔道整復学まとめ① 51. 実践柔道整復学まとめ② 52. 実践柔道整復学まとめ② 53. 実践柔道整復学まとめ③ 54. 実践柔道整復学まとめ③ 55. 実践柔道整復学まとめ④ 56. 実践柔道整復学まとめ④ 57. 実践柔道整復学の演習① 58. 実践柔道整復学の演習① 59. 実践柔道整復学の演習② 60. 実践柔道整復学の演習② 	
準備学習	事前に教科書、配布資料をよく読んでおくこと		
教科書・教材等	全国柔道整復学校協会監修 教科書		
授業の形式 教育機器の活用	講義 視聴覚機器利用		
成績評価の方法	卒業試験等		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	在学3年間で学んだことの集大成として、国家試験を受験するにあたって必要な知識がしっかり身についているかを確認する講義です。 理解が不十分なところを再度確認し、国家試験に挑めるよう最善を尽くしてください。		

令和 6 年度年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	柔道整復実技Ⅲ	担 当 教 官 名	今村浩久
対象学生	第3学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	モデルは負傷していないが、実際の患者は負傷していることを常に考える		
授業の概要 及び到達目標	認定実技審査診察整復項目 認定実技審査合格		
講義計画・内容	1 実技オリエン 鎖骨骨折 2 上腕骨外科頸骨折 3 colles骨折 4 肩鎖関節脱臼 5 肩関節脱臼 6 肘関節脱臼 7 肘内障 8 確認テスト 9 肩腱板損傷 10 上腕二頭筋長頭腱損傷 11 ハムストリングス損傷 12 大腿四頭筋打撲 13 確認テスト 14 膝関節側副韧带損傷 15 膝関節十字韧带損傷 16 膝関節半月板損傷 17 下腿三頭筋損傷 18 足関節外側韧带損傷 19 確認テスト 20 再チェック 鎖骨骨折、外科頸骨折	21 再チェック colles骨折、肩鎖関節脱臼 22 再チェック 肩関節脱臼、肘関節脱臼 23 再チェック 肘内障、腱板損傷 24 再チェック 二頭筋長頭腱損傷 ハムスト損傷 25 再チェック 四頭筋損傷、側副韧带損傷 26 再チェック 十字韧带損傷、半月板損傷 27 再チェック 下腿三頭筋損傷、足関節外側韧带損傷 28 認定実技前練習 29 予備(鑑別診断、救急処置) 30 後期試験	
準備学習	1年2年でやってきた実技の総復習である。検査や整復手順をしっかりと見直しておくこと		
教科書・教材等	柔道整復学・理論編、柔道整復学・実技編、配布資料		
授業の形式 教育機器の活用	実技		
成績評価の方法	実技試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	認定実技審査合格に向けての授業となるが、実際の負傷した患者を診ることを常に意識し、施術できるように考えて行動してほしい。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	柔道整復実技Ⅳ	担当教官名	露久保 範昭
対象学生	第3学年	履修学期	前期・後前期
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	整復後の固定法		
授業の概要 及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な損傷に対する固定法の習得 ・臨床での実践力・対応力の向上 ・損傷に対する正確でスピーディーな固定能力を高める ・認定実技審査全員合格 		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の勧め方等・基本包帯法の復習 2. 足関節外側靭帯損傷 3. 下肢に対するテーピング(膝・足関節) 4. 手第5指中手骨頸部骨折 5. 手第2指PIP関節背側脱臼 6. 肩鎖関節上方脱臼 7. 鎖骨骨折 8. 肩関節前方脱臼 9. 1セメ試験(テーピング) 10. 試験解説 11. 上腕骨骨幹部骨折 12. 肋骨骨折 13. 下腿骨骨幹部骨折 14. アキレス腱断裂 15. コーレス骨折 16. 肘関節後方脱臼 17. 実技試験の説明、実技練習 18. 総復習、実技練習 19. 総復習、実技練習 20. 実技試験 	<ol style="list-style-type: none"> 21. 上肢への固定法の復習 22. 上肢への固定法の復習 23. 下肢・体幹への固定法の復習 24. 下肢・体幹への固定法の復習 25. 認定実技前 総復習 26. 認定実技解説 27. 定期試験に対する復習 28. 定期試験に対する復習 29. 定期試験に対する練習 30. 実技試験 	
準備学習	固定の目的や範囲、肢位等を理解し、多種多様な損傷に適した固定を選択できるよう理論を復習し、固定法を反復練習する事。		
教科書・教材等	柔道整復学・理論編、柔道整復学・実技編、硬性材料、軟性材料		
授業の形式 教育機器の活用	実技		
成績評価の方法	実技試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	1・2年生時に配布された資料を見直しておくこと。授業は自分の弱点補強や改善点を学ぶ場として参加してください。時間を有効に使い、自主練習も積極的に行って認定実技審査合格を目指しましょう。		

令和6年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復科	授業科目区分(基専)	専門分野																																																		
授業科目名	臨床実習	担当教官名	黄海 匡士																																																		
対象学生	第3学年	履修学期	前期																																																		
必修・選択の別	必修	授業回数	25回																																																		
授業のキーワード	臨床実習、接骨院、施術録																																																				
授業の概要 及び到達目標	<p>実習を通じて柔道整復師のあるべき姿を理解し、コンプライアンス・医療面接・インフォームドコンセント・手技療法・施術録の記入など、今後臨床家として必要になると考える『知識、技術の基本および実践』をまなぶ。 実習後、報告書をまとめ発表することができる。 実習後、自らの将来像を考えることができる。</p>																																																				
講義計画・内容	<table border="0"> <tr> <td>1W(施術の介助)</td> <td>患者誘導など(愛護的に行うには・・・)</td> </tr> <tr> <td>2W(施術録の作成)</td> <td>施術録の項目説明および書き方(冷罨法・温罨法・施療料など)</td> </tr> <tr> <td>3W(施術の介助)</td> <td>施術録の項目説明および書き方(指導者と同水準で)</td> </tr> <tr> <td>4W(指導管理)</td> <td>施術計画の立案・計画を患者に説明できる</td> </tr> <tr> <td>5W(救急処置)</td> <td>救急患者の対応(応急処置の仕方など)</td> </tr> <tr> <td>6W(後療法)</td> <td>手技療法①(具体的な治療法について)</td> </tr> <tr> <td>7W(固定)</td> <td>軟性材料の実践・上肢(包帯法及びテーピング)</td> </tr> <tr> <td>8W(固定)</td> <td>軟性材料の実践・下肢(包帯法及びテーピング)</td> </tr> <tr> <td>9W(テスト①)</td> <td>座学などの理解度テスト</td> </tr> <tr> <td>10W(後療法)</td> <td>手技療法②(具体的な治療法について)</td> </tr> <tr> <td>11W(診察)</td> <td>ROM・MMTの計測、評価について①【四肢長・周径など】</td> </tr> <tr> <td>12W(診察)</td> <td>ROM・MMTの計測、評価について②【四肢長・周径など】</td> </tr> <tr> <td>13W(診察)</td> <td>各種徒手検査・各種反射検査など</td> </tr> <tr> <td>14W(おまかせ)</td> <td>ご自由に</td> </tr> <tr> <td>15W(おまかせ)</td> <td>ご自由に</td> </tr> <tr> <td>16W(多職種連携)</td> <td>紹介状の書き方・お礼状の書き方など</td> </tr> <tr> <td>17W(固定)</td> <td>固定法・硬性材料の実践(キャスト・ギプスなど)</td> </tr> <tr> <td>18W(手技)</td> <td>手技療法③(具体的な治療法について)</td> </tr> <tr> <td>19W(手技)</td> <td>手技療法④(具体的な治療法について)</td> </tr> <tr> <td>特別講義(態度)</td> <td>オリエンテーション(態度・リスクマネジメント・SNSでの注意点など)</td> </tr> <tr> <td>特別講義(症例報告)</td> <td>PowerPoint作成について(症例報告について)</td> </tr> <tr> <td>特別講義(試験)</td> <td>実習前施術試験</td> </tr> <tr> <td>特別講義(態度)</td> <td>実習前オリエンテーション(書類配布・諸注意など)</td> </tr> <tr> <td>特別講義(症例報告)</td> <td>発表準備</td> </tr> <tr> <td>特別講義</td> <td>症例報告会</td> </tr> </table>			1W(施術の介助)	患者誘導など(愛護的に行うには・・・)	2W(施術録の作成)	施術録の項目説明および書き方(冷罨法・温罨法・施療料など)	3W(施術の介助)	施術録の項目説明および書き方(指導者と同水準で)	4W(指導管理)	施術計画の立案・計画を患者に説明できる	5W(救急処置)	救急患者の対応(応急処置の仕方など)	6W(後療法)	手技療法①(具体的な治療法について)	7W(固定)	軟性材料の実践・上肢(包帯法及びテーピング)	8W(固定)	軟性材料の実践・下肢(包帯法及びテーピング)	9W(テスト①)	座学などの理解度テスト	10W(後療法)	手技療法②(具体的な治療法について)	11W(診察)	ROM・MMTの計測、評価について①【四肢長・周径など】	12W(診察)	ROM・MMTの計測、評価について②【四肢長・周径など】	13W(診察)	各種徒手検査・各種反射検査など	14W(おまかせ)	ご自由に	15W(おまかせ)	ご自由に	16W(多職種連携)	紹介状の書き方・お礼状の書き方など	17W(固定)	固定法・硬性材料の実践(キャスト・ギプスなど)	18W(手技)	手技療法③(具体的な治療法について)	19W(手技)	手技療法④(具体的な治療法について)	特別講義(態度)	オリエンテーション(態度・リスクマネジメント・SNSでの注意点など)	特別講義(症例報告)	PowerPoint作成について(症例報告について)	特別講義(試験)	実習前施術試験	特別講義(態度)	実習前オリエンテーション(書類配布・諸注意など)	特別講義(症例報告)	発表準備	特別講義	症例報告会
1W(施術の介助)	患者誘導など(愛護的に行うには・・・)																																																				
2W(施術録の作成)	施術録の項目説明および書き方(冷罨法・温罨法・施療料など)																																																				
3W(施術の介助)	施術録の項目説明および書き方(指導者と同水準で)																																																				
4W(指導管理)	施術計画の立案・計画を患者に説明できる																																																				
5W(救急処置)	救急患者の対応(応急処置の仕方など)																																																				
6W(後療法)	手技療法①(具体的な治療法について)																																																				
7W(固定)	軟性材料の実践・上肢(包帯法及びテーピング)																																																				
8W(固定)	軟性材料の実践・下肢(包帯法及びテーピング)																																																				
9W(テスト①)	座学などの理解度テスト																																																				
10W(後療法)	手技療法②(具体的な治療法について)																																																				
11W(診察)	ROM・MMTの計測、評価について①【四肢長・周径など】																																																				
12W(診察)	ROM・MMTの計測、評価について②【四肢長・周径など】																																																				
13W(診察)	各種徒手検査・各種反射検査など																																																				
14W(おまかせ)	ご自由に																																																				
15W(おまかせ)	ご自由に																																																				
16W(多職種連携)	紹介状の書き方・お礼状の書き方など																																																				
17W(固定)	固定法・硬性材料の実践(キャスト・ギプスなど)																																																				
18W(手技)	手技療法③(具体的な治療法について)																																																				
19W(手技)	手技療法④(具体的な治療法について)																																																				
特別講義(態度)	オリエンテーション(態度・リスクマネジメント・SNSでの注意点など)																																																				
特別講義(症例報告)	PowerPoint作成について(症例報告について)																																																				
特別講義(試験)	実習前施術試験																																																				
特別講義(態度)	実習前オリエンテーション(書類配布・諸注意など)																																																				
特別講義(症例報告)	発表準備																																																				
特別講義	症例報告会																																																				
準備学習	柔道整復学、関係法規など柔道整復業務に関わる全てを理解していることが望ましい																																																				
教科書・教材等	柔道整復学(理論・実技)、プリント																																																				
授業の形式 教育機器の活用	角度計、触診技術、プリント、包帯、テーピングなど																																																				
成績評価の方法																																																					
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>学内の臨床実習にて授業で習ったことの再確認と、臨床現場で必要な基礎を学びます。 身嗜みや礼儀作法など医療人として必要なことを学習し、外部での臨床実習につなげます。</p> <p>外部実習に出た際に様々な経験ができると思いますが、それまでに必要な知識と技術を身に付けられるようにしていきたい。</p>																																																				